

防犯まちづくりのための 調査の手引き < 実践編 >

2地区でのケーススタディを踏まえて

まちの
概況把握

みまもり

車の通り抜け

くらがり

身近な公園

独立行政法人 建築研究所

Published by

Building Research Institute

Incorporated Administrative Agency, Japan

建築研究資料

Building Research Data

No. 133

May 2011

防犯まちづくりのための調査の手引き〈実践編〉 ～2地区でのケーススタディを踏まえて

A Survey Guide for Safe Neighborhoods from Crime <Practices>
- through Case Studies in Two Neighborhoods

樋野公宏・石井儀光・雨宮護・寺内義典・橋本成仁・松村博文

Kimihiro Hino, Norimitsu Ishii, Mamoru Amemiya, Yoshinori Terauchi, Seiji Hashimoto, Hirofumi Matsumura

独立行政法人 建築研究所

Published by

Building Research Institute

Incorporated Administrative Agency, Japan

はしがき

独立行政法人建築研究所は、より良い住宅・建築・都市を実現するため、公的研究機関として公平・中立な立場を活かした研究開発を実施し、その成果を社会・国民に還元することにより、真に豊かさの実感できる国民生活の実現と経済・社会の発展に貢献することを基本的役割としています。その役割を果たすための重要課題として、安全・安心で質の高い社会と生活を実現するための研究開発に取り組んでいますが、地震や火災などに対する安全性の向上のほか、防犯や交通事故の防止など、日常の暮らしの中での安全・安心の確保に対する国民のニーズの高まりに対応した研究活動にも力を入れています。

この分野の取り組みとして、建築研究所では、平成 21,22 年度、重点的研究開発課題「防犯性向上に資するまちづくり手法の開発」を実施してきました。調査・研究の実施に当たっては、「防犯性向上に資するまちづくり手法の開発に関する検討委員会」を設置し、外部の学識経験者にご助言をいただきました。「防犯まちづくりのための調査の手引き<実践編>」は、上記研究開発課題の成果のひとつであり、ここに建築研究資料として出版するものです。

なお、本資料はタイトルに「防犯」を掲げていますが、防犯以外の視点も含めた総合的なまちづくりにつながるよう、交通安全、地域活性化など、防犯以外の視点も取り入れています。また、専門家のための資料ではなく、研究の成果を、一般の住民の方にもご理解いただけるよう、わかりやすく取りまとめたものとなっています。本資料が、防犯まちづくりに関わる多くの方々に活用され、各地でより良いまちづくりが実現されることを祈念します。

最後に、関連する研究開発の実施ならびに本資料の取りまとめにあたってご指導・ご助言を賜りました小出治委員長（東京大学教授）をはじめとする検討委員会の委員各位に改めて御礼申し上げます。

平成 23 年 5 月

独立行政法人建築研究所 理事長

村上 周三

防犯まちづくりのための調査の手引き<実践編>
～2地区でのケーススタディを踏まえて

概要

本資料は、建築研究所が第2期中期計画の研究開発の目標として取り組んでいる「安全・安心で質の高い社会と生活を実現する研究開発」の一環として、平成 21,22 年度に実施した重点的研究開発課題「防犯性向上に資するまちづくり手法の開発」の成果物のひとつである。同研究開発課題の推進に当たっては、平成 21 年度に「防犯性向上に資するまちづくり手法の開発に関する検討委員会」を設置し、外部の学識経験者の助言を得た。本資料は同研究開発課題の成果のひとつである。

本資料は、防犯まちづくりの現場において、交通安全の視点も含めて地域の課題を客観的に把握するための手法を、活用事例とともに紹介したものであり、「防犯まちづくりのための調査の手引き」（建築研究資料 117 号、2009 年）の続編として位置づけられる。前編と比べると、利用者の声を踏まえて調査手法が改良されたほか、実際の活用事例を掲載することでより実践的な活用が期待される。本資料で紹介する調査手法は、防犯活動の主体が活動の方向性を揃え、より効果的な活動を行うために必要な客観的なデータを獲得するためのもので、地域特性に応じた協働による防犯まちづくりの推進に寄与するものである。

A Survey Guide for Safe Neighborhoods from Crime <Practices>
- through Case Studies in Two Neighborhoods

Summary

This guide is one of the results of an important research project entitled “Development of technologies for safer neighborhoods from crime” (2009-2011). This two-year project was carried out under the guidance and advice of a committee consisting of experts from external research agencies, universities and ministries.

This guide introduces objective methods to recognize crime-related problems within neighborhoods. Typically in Japan, various stakeholders take part in crime preventive efforts within their neighborhoods. The methods in this guide are designed to enable stakeholders to gather information related to crime prevention in order to give them common objectives and make their efforts more effective, which would contribute to neighborhoods safe from crime.

防犯性向上に資するまちづくり手法の開発に関する検討委員会

(委員長)

小出 治 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授

(委員) (敬称略、五十音順)

雨宮 護 警察庁科学警察研究所犯罪行動科学部 研究員 ※

井上 誠 警察庁生活安全局生活安全企画課 都市防犯対策官

寺内 義典 国士舘大学理工学部 准教授 ※

橋本 成仁 岡山大学大学院環境学研究科 准教授 ※

松村 博文 北海道立北方建築総合研究所 科長 ※

三浦 昌生 芝浦工業大学システム工学部環境システム学科都市環境工学研究室 教授

柳生 勇 国土交通省都市・地域整備局都市・地域安全課都市・地域防災対策推進室 室長

※はワーキンググループ委員

建築研究所担当者

樋野 公宏 独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ 主任研究員 (幹事)

石井 儀光 独立行政法人建築研究所 住宅・都市研究グループ 主任研究員

(所属は平成 22 年 3 月末時点)

本資料は、上記検討委員会の助言を得て建築研究所が作成した。調査内容の検討、執筆はワーキンググループ委員が下記の通り分担した。

I 章 樋野公宏、石井儀光

II 章 近文地区：松村博文

久米地区：樋野公宏

III 章 みまもり量調査：松村博文、寺内義典、樋野公宏

車の通り抜け調査：橋本成仁、樋野公宏

くらがり調査：松村博文、石井儀光

身近な公園調査：雨宮護、樋野公宏

IV 章 近文地区：松村博文

久米地区：樋野公宏

なお、本資料の作成に当たっては、補助業務を(株)市浦ハウジング&プランニングに委託した。

目 次

I	はじめに	1
II	対象地区の概要と調査での配慮・工夫点	5
	1. 対象地区の概要	5
	2. 調査の経緯と配慮・工夫点	9
III	各地区で用いた手引きと解説	13

旭川市 <small>ちかひ</small> 近文地区・みまもり量調査の手引き	15
---	----

1.	みまもり量調査の目的	16
2.	調査方法	17
A	日常型みまもり量調査（日常調査）	
A-1.	調査の内容	18
A-2.	調査の準備	19
A-3.	調査スケジュール	19
A-4.	調査の実施方法	20
A-5.	調査にあたっての注意点	22
B	集中型みまもり量調査（集中調査）	
B-1.	調査の内容	23
B-2.	調査の準備	24
B-3.	調査スケジュール	25
B-4.	調査の実施方法	26
B-5.	調査にあたっての注意点	29

松山市久米地区・車の通り抜け調査の手引き	31
----------------------	----

1.	車の通り抜け調査の目的	32
2.	調査の内容	33
3.	調査の準備	35
4.	調査スケジュール	37
5.	調査の実施方法	38
6.	調査にあたっての注意点	40

旭川市 <small>ちかひ</small> 近文地区・くらがり調査の手引き	43
--	----

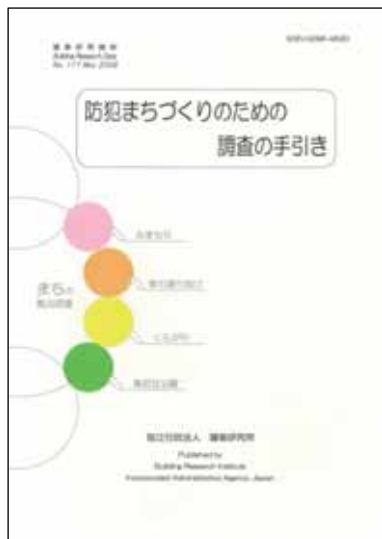
1.	くらがり調査の目的	44
2.	調査の内容	45
3.	調査の準備	48
4.	調査スケジュール	49
5.	調査の実施方法	50
6.	調査にあたっての注意点	55

松山市久米地区・身近な公園調査の手引き	57
---------------------	----

1.	身近な公園調査の目的	58
2.	調査の内容	59
3.	調査の準備	61
4.	調査スケジュール	62
5.	調査の実施方法	63
6.	調査にあたっての注意点	72

IV	その後の取り組み	75
----	----------	----

I はじめに



「本編」



「概要版」

建築研究所では、2009年に「防犯まちづくりのための調査の手引き」(左図)を作成しました。これは、防犯まちづくりの現場において、交通安全の視点も含めて、地域の課題を客観的に把握するための手法を紹介したものです。紹介した調査手法は、防犯活動の主体が活動の方向性を揃え、より効果的な活動を行うために必要な客観的なデータを獲得するためのもので、地域特性に応じた協働による防犯まちづくりの推進に寄与するものです。

その「実践編」と位置づけられる本書は、上記「手引き」を使って、実際の調査に取り組んだ2地区の事例を紹介するものです。

本書は、地域住民や関連組織(自治会・町内会、公民館、PTA、婦人会、老人会、青年会、商店会、青少年健全育成会、防犯協会・交通安全協会、まちづくりNPOなど)が主体となって活用することを想定しています。必要に応じて、大学、コンサルタントなどの専門家や、自治体、警察の協力を得て活用してください。

調査の進め方は、その地域の特性や状況によって異なります。本書を活用する際には、「防犯まちづくりのための調査の手引き」も参照のうえ、地域の特性や状況を踏まえてカスタマイズして調査を行ってください。

※「防犯まちづくりのための調査の手引き」(2009年)掲載の「みまもり量調査」の分類について、下記のように名称を改訂しました。

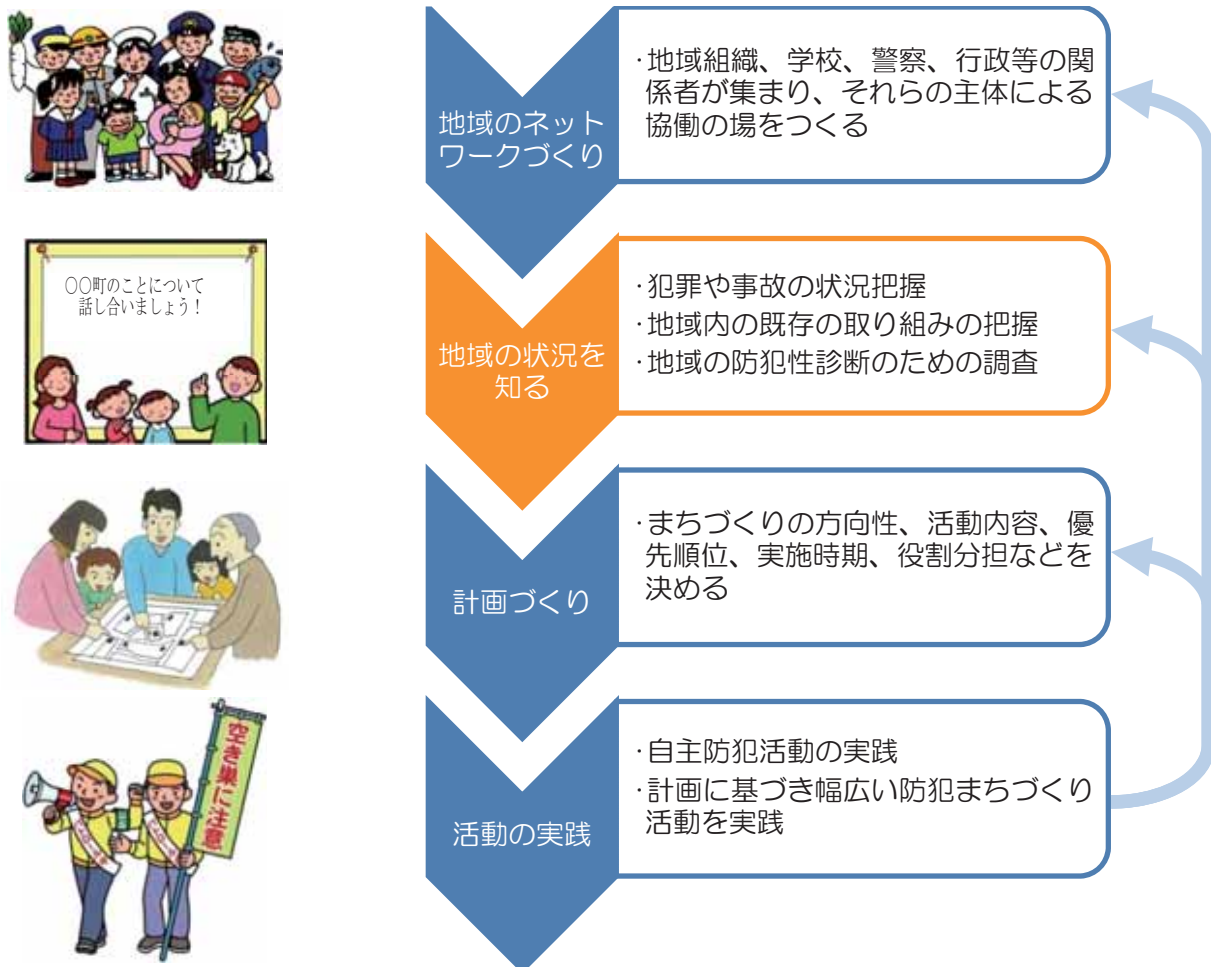
(旧)継続型調査 ⇒(改)日常調査

(旧)イベント型調査 ⇒(改)集中調査

防犯まちづくりにおける位置づけ

防犯まちづくりにおいては、地域組織、学校、警察、行政等の関係者が協働する基盤としての地域ネットワークづくりを行ったうえで、地域の状況把握、課題解決に向けた計画づくり、実際の活動の実践というプロセスが推奨されます。

ここで紹介する調査手法は、これら一連のプロセスの中で「地域の状況を知る」段階に位置づけられます。

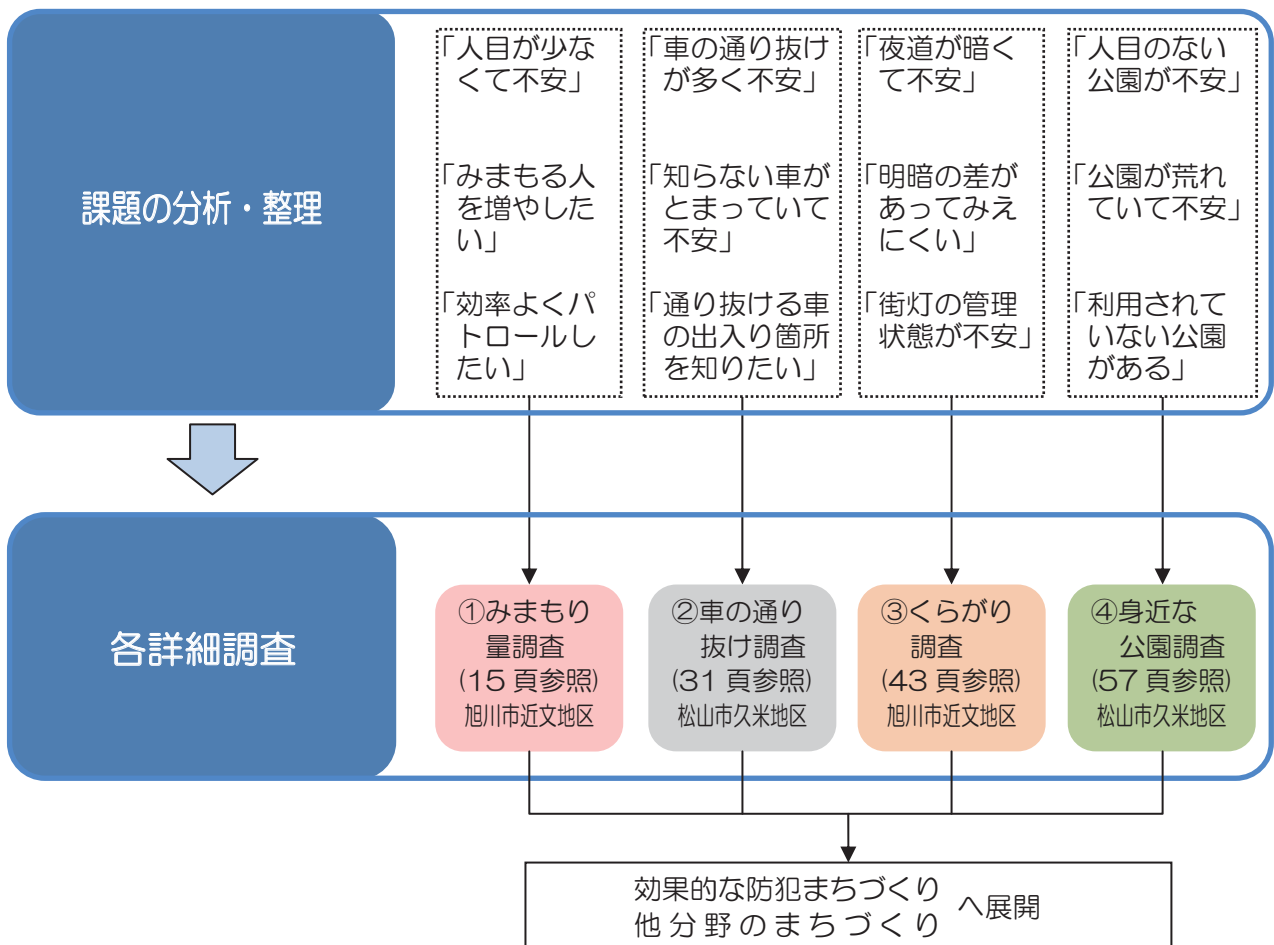


参考：「安心して暮らせるまちにするために」（国土交通省、2008）

使い方

ここで紹介する4つ調査手法は、地域住民から不安として挙がりやすい項目に照らして重要と思われる調査です。

本書は、「防犯まちづくりのための調査の手引き」（2009年）を参考に、地域の特性や状況を踏まえて調査を実施した2地区の事例を紹介するとともに、調査にあたっての配慮・工夫点を整理しています。



Ⅱ 対象地区の概要と調査での配慮・工夫点

1. 対象地区の概要

以下、「防犯まちづくりのための調査の手引き」(2009年)を使って、実際の調査に取り組んだ下記の2地区の事例を紹介します。

北海道旭川市近文地区

近文地区は旭川市内の住宅や商業、業務用建物が混在した地区(3.8km²)で、1小学校区に対応します。2004年の大規模ショッピングセンターの出店をきっかけに、小学校での防犯や交通安全に関する取り組みが始まり、その後、社会福祉協議会をコーディネーターに自治会や小中学校、高校、警察、行政などが連携して継続的にみまもり活動(近文あい運動)を行ってきました。

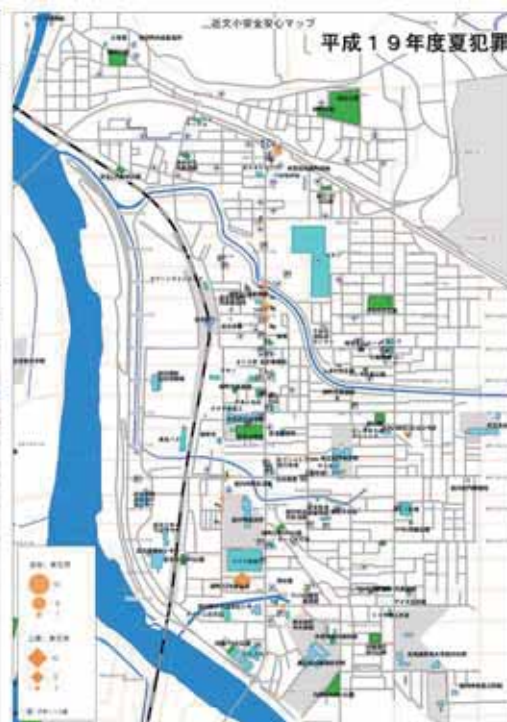
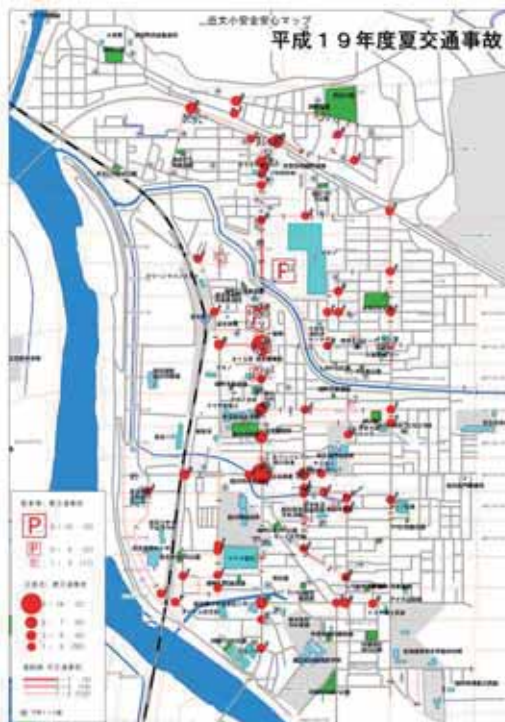
当地区では、「みまもり量調査」及び「くらがり調査」を実施しました。



■近文地区安全安心マップ(交通事故・犯罪危険箇所 平成19年度夏バージョン)

※旭川市では7m以上の降雪量があり、積雪期には外部環境が大きく変化し、犯罪や交通事故の危険箇所が異なるため、夏と冬のバージョンを作成しています。

近文地区のまちの様子



■これまでの防犯活動の取り組み

2005年9月 安全安心マップ(非積雪期編)作成

- マップづくりの準備(2004年度)
 - ・2004年の大規模ショッピングセンターの出店をきっかけに、小学校での防犯や交通安全に関する取り組みが始まる
 - ・マップづくりを通じた校区内巡り、4学年による全学年への安全啓発活動、地域へのチラシ配りや参観日に学習の成果を発表(総合学習「近文セーフティー大作戦」)
- 北方建築総合研究所(北総研)の協力により、全家庭に危険箇所等のアンケートを実施。安全安心マップを作成し、全保護者に配布。



総合学習での現場検証

2006年1月 近文あい運動

- ・各町内会長、地区社協、地区市民委員、中央警察署、交番、近文小、北門中、明成高、北総研が出席して、「近文あい運動」を立ち上げ、みまもり活動を開始
- ・集団下校で子供が一人になる区間を表した安全安心マップを活用し、見守りポイントを修正(2006年2月)
- ・「近文あい運動」についてのアンケート調査(職員、PTA、見守り参加者)を行い、活動の不満や改善点を把握(2006年7~9月)
- ・日ごろの見守り活動への感謝の気持ちを伝える場を設け、定期的に地域の交流活動を実施



みまもり活動の様子

2006年10月 近文あい運動ワークショップ

- ・保護者家族、教員、あい運動参加者、北総研、計100名が地域を歩いて危険箇所、原因、方策などを検討
- ・大型マップに場所・原因などの記入、写真の貼り付け、討論・発表
- ・通学路の見直しと子ども110番の家の位置の再検討



危険要因の現場検証



マップ上での確認

2007年3月 安全安心マップ(積雪期編)作成

- ・積雪期における犯罪、交通事故に関する危険箇所及びよく遊ぶ場所を把握(2005年作成分と合わせて積雪期編と非積雪期編が揃う)
- ・北海道教育大旭川校の学生ボランティアが入力・集計作業を実施
- ・12月には、非積雪時の危険箇所について全校アンケート調査を行い、2005年作成分との経年比較(活動成果の確認)を行った

2008年10月 旭川市近文地区住まいと街の安全・安心再生計画の策定

- 国交省、警察庁の「住まいと街の安全安心プロジェクト」でモデル地区(全国13地区)に選定される
- ・これまでの運動の課題を整理し、今後の目標と方針、取り組み方策を定めたアクションプランを作成
- ・活動目的が子どもの安全から中高生や大人の安全も含む地域安全に発展

2009年11月 集中型みまもり量調査

- ・特別なみまもり活動をしなくても安全な地区が目標
- ・みまもりの実態を量として把握するため、校区内の3ルートについて、集中型みまもり量調査(非積雪期)を実施
- ・2010年2月には積雪期の調査を実施



2009年9月 くらがり調査①

- ・中高生の部活や塾の帰り道などの防犯対策として、くらがりによる不安箇所を把握するアンケート調査と校区内の照度調査(非積雪期)を実施
- ・2010年2月には積雪期の調査を実施



愛媛県松山市久米地区

久米地区は松山市の南東部、市役所から約5kmに位置する郊外住宅地で、4小学校区（1中学校区）に対応します。

2004年度以降、公民館が主体となって子どもから大人まで安全マップづくりに取り組み、公園の見直し改善や街灯の増設などの防犯対策から、多様な地域の活動・交流に広がっています。

2009年度は、前年の安全マップを受けて、久米小学校周辺の通過交通、福音公園の不安を重点課題に挙げました。

当地区では、「車の通り抜け調査」及び「身近な公園調査」を実施しました。



■2009年度 地域安全マップ

久米地区のまちの様子



■これまでの防犯活動の取り組み

2005年8月 安全マップづくり①

- ・ NPO しょうまの提案を受け、久米地区青少年健全育成連絡会がまちづくりに繋がる初めての安全マップづくりを久米地区4小学校で実施
- ・ 簡易 WebGIS「カキコまっぷ」を活用し、インターネット上でも情報を収集・共有
- ・ 有志の寄付により、作成されたマップの写真を掲載した冊子 3000部を作成・配布
- ・ すぐに南久米公園の木の伐採、久米小北側の防犯灯設置などの改善



マップづくりの発表会

2008年3月 安全マップづくり②

- ・ 久米小学校で実験的に「つたえる」をキーワードに、小学校時代にマップづくりを経験し、中学生になっている子どもをリーダーに「まちあるき」ワークショップを実施。新入学生にマップを配布
- ・ 交通安全、(ネガティブチェックに陥らないよう) いい所探しを重点化
- ・ まちあるき後、公民館で座談会「小学校横の通学路を安全に」を開催。大人が久米小前の道路の交通安全問題について集中討議



中学生によるまちあるき

2009年2月 安全マップづくり③

- ・ 筑波大学の協力により3小学校でマップづくりを実施

<久米学校支援地域本部報告会※(3月)>

- ・ 筑波大学作成による新入生用マップのお披露目
- ・ まちあるきで発見した主要課題を各校のコーディネーターが発表
久米小学校前の道路の交通安全と、福音公園の安全性の2点を久米地区の重点課題に

※学校支援地域本部とは、「地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図るために実施している事業」(文部科学省)



配布した新入生用マップ

2009年6月 「福音公園を考える会」

町内会長、子ども会、公民館、学校が参加し、「福音公園を考える会」を設立

2009年7月 車の通り抜け調査

重点課題とされた久米小学校前道路の交通安全について、車の通り抜け調査を実施



2009年7月 身近な公園調査

重点課題とされた福音公園の安全性について、保護者への意識調査、現地防犯診断、ワークショップなどを実施



2. 調査の経緯と配慮・工夫点

(1) 旭川市近文地区・みまもり量調査の経緯と配慮・工夫点



調査の事前説明会



集中調査の様子



調査結果の報告会の様子
(2009年度)

- ・調査対象（地域・ルート）の選定は、都市計画基礎調査と現地調査をもとに特性の異なる3地区を専門家が選定しました。
- ・集中型みまもり量調査（集中調査）は、地元住民や地区内の高校生、小学校、社会福祉協議会等が参加して実施しました。後半（夕方）は高校生も加わって調査できるよう調査時間・日程の調整を行いました。
- ・調査票については、わかりやすく、記入しやすいように、模擬調査を実施して改良を加えていきました。特に、日常型みまもり量調査（日常調査）については、集中調査での経験を踏まえて、より簡易でわかりやすいよう工夫しました。
- ・集中調査の実施にあたっては、ルートを確認するため、調査のはじめに練習時間を設けました。
- ・また、調査が不安な方の場合は、記録する人とカウントする人を分けて二人体制で行うとともに、サポートする専門家が巡回し、調査の不明点等を解消できるよう工夫しました。
- ・その後も、日常調査を継続して実施しています。

■みまもり量調査の実施経緯

2009年度（平成21年度）	
9月	事前調査（調査対象ルートの事前確認）
10月8日	調査試行、記録用紙等の修正・加筆、ルートの再考
11月4, 5日	集中調査（非積雪期）実施
2月2, 3日	集中調査（積雪期）実施
2月23日	「緊急」子供を守るための住民懇談会&ネットワーク会議にて調査結果の報告、意見交換
2010年度（平成22年度）	
10月25日～ 11月26日	日常調査（非積雪期）実施
1月17日～ 2月18日	日常調査（積雪期）実施

(2) 松山市久米地区・車の通り抜け調査の経緯と配慮・工夫点



事前の調査地点確認の様子



調査の事前説明会の様子



調査の様子

- ・調査対象（地域・地点）の設定は、地元の状況をよく知る方々と専門家が現地で相談して決めました。
- ・調査員の安全性やナンバー確認のしやすさを考慮して調査地点を探すとともに、隣地に調査協力を依頼しました。
- ・調査は、学校やPTA、防犯ボランティアの協力で行いました。
- ・久米地区では、トラックなど特定の車種が問題となっているわけではなかったため、車種区分は調査しませんでした。
- ・自動車のナンバープレートの記録方法としてビデオカメラやボイスレコーダーを利用する方法もあります。久米地区では、事前調査の結果、通過交通量がそれほど多くなく、スピードも速くないことが確認できたことから、目視で確認し記載することにしました。
- ・調査後には、車の通り抜けの状況・問題について、調査員を対象とするアンケートや意見交換の場を設けました。

■車の通り抜け調査の実施経緯

2009年度（平成21年度）	
6月26日	事前調査（調査地点の確認・設定）
7月13日	調査地点の確認、調査員への事前説明
7月14日	車の通り抜け調査の実施
10月20日	調査結果の報告・意見交換、提案 「青少年健全育成連絡会」での報告

(3) 旭川市近文地区・くらがり調査の経緯と配慮・工夫点



調査の事前説明会の様子



照度調査の様子



街灯調査の様子



調査結果の報告会の様子



計測のための道具

- ・調査対象は、近文小学校地区内ほぼ全域としました。
- ・2009年度はまず近文あい運動参加者300人を対象にアンケート調査を実施し、くらがりによる不安箇所、改善必要箇所を把握しました。
- ・照度調査は、非積雪期と積雪期に分けて実施しました。
- ・調査日が複数日に渡るため、周辺の光の影響を受けにくい小学校グラウンドの特定地点において、調査前後の照度を計測し、調査結果の補正を行いました。
- ・夜間の調査ということで、昼間は働くPTAのお父さん方や学校の先生にも協力をお願いしました。
- ・照度調査では、水平面照度と鉛直面照度を調べました。専門家の協力により、調査をできるだけ正確かつ円滑にできるように計測のための道具（写真）を作成しました。
- ・街灯調査で、位置・管理番号、明るさ障害要因についても調査しました。
- ・1回目の調査員に対するアンケートで、「地図上での位置がわかりにくい」という指摘があったため、2回目以降の調査票は建物入りの地図をベースとしたものに変更しました。

■くらがりの調査の実施経緯

2009年度（平成21年度）	
8月20日～ 9月1日	くらがりアンケート調査の実施（対象：近文あい運動参加者300人）
9月初旬	計測のための道具の作成
9月17, 18日 10月26日	照度調査（非積雪期）実施（553箇所）
2月2, 3日	照度調査（積雪期）実施（479箇所）
2月23日	「緊急」子供を守るための住民懇談会&ネットワーク会議にて調査結果の報告・意見交換
2010年度（平成22年度）	
9月6, 7日	照度調査（非積雪期）実施（572箇所）

(4) 松山市久米地区・身近な公園調査の経緯と配慮・工夫点



調査の事前説明会の様子



現地調査の様子



調査後のワークショップの様子

- ・問題とされる公園の特徴を相対的に把握するため、学区内5カ所の公園を調査対象としました。
- ・現地調査に先立ち、公園に対する意識調査として、福音小学校の全児童の保護者を対象にアンケート調査を実施しました。保護者の公園への意識を把握するとともに、調査結果をフィードバックすることで、問題意識の共有を図りました。
- ・現地調査は、学校やP T A、防犯ボラティアの協力で行いました。とくに公園の主な利用者は子ども達となるため、保護者と子ども(小学生)の参加により行いました。問題点を診断するだけでなく、良いところを伸ばし愛着のあるものにしていくことも大切です。そのため、「好きなところ・良いところ」、「花壇やプランターなど住民が直接管理できる設備の有無」などをチェック項目に追加しました。
- ・また、現地調査では公園を利用している人や管理者などの意識や意向についてもヒアリングを行いました。
- ・調査後、現地調査の結果をもちより、問題点や良いところなどを模造紙に整理し、問題意識の共有を図るためにワークショップを実施しました。

■身近な公園調査の実施経緯

2009年度(平成21年度)	
6月26日	事前調査(調査対象の事前確認)
6月30日	「福音公園を考える会」を福音小で開催
7月初旬	地図作成のための基礎的情報の収集
7月13日	公園に対する保護者等の意識調査(アンケート調査)の実施
7月16日 ~27日	アンケート調査の回収・集計・分析
7月23日	5カ所の公園の防犯診断の実施・ワークショップ
10月20日	「青少年健全育成連絡会」での調査結果の報告・意見交換・提案

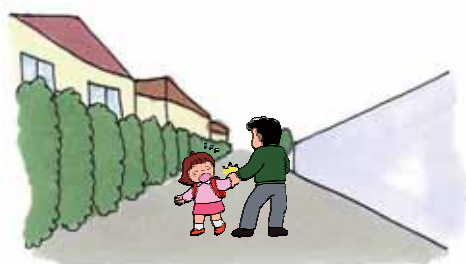
Ⅲ 各地区で用いた手引きと解説



本章では、各調査とも地域の特性や状況を踏まえてカスタマイズされた調査の手引きを掲載するとともに、調査にあたっての配慮・工夫点を吹き出しで追記しています。

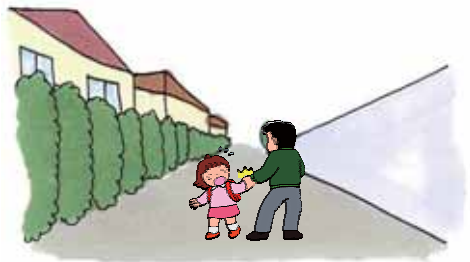
旭川市近文地区・みまもり量調査の手引き.....	15
松山市久米地区・車の通り抜け調査の手引き.....	31
旭川市近文地区・くらがり調査の手引き.....	43
松山市久米地区・身近な公園調査の手引き.....	57

旭川市近文地区 みまもり量調査の手引き



1. みまもり量調査の目的	16
2. 調査方法	17
A 日常型みまもり量調査（日常調査）	
A-1. 調査の内容	18
A-2. 調査の準備	19
A-3. 調査スケジュール	19
A-4. 調査の実施方法	20
A-5. 調査にあたっての注意点	22
B 集中型みまもり量調査（集中調査）	
B-1. 調査の内容	23
B-2. 調査の準備	24
B-3. 調査スケジュール	25
B-4. 調査の実施方法	26
B-5. 調査にあたっての注意点	29

1. みまもり量調査の目的



背景、現状・問題認識

防犯まちづくりでは、人の目の存在がきわめて重要であるとされます。しかし近年では、特に住宅地において、核家族世帯や共働き世帯の増加などのライフスタイルの変化、それに伴う近所づきあいの希薄化、屋外での活動の減少により、地域の公共空間に注がれる自然な人の目が減少していると言われています。

人気のない道路は不安を感じます。見通しが確保されていても、そこをみまもる人がいることも必要です。パトロールや、朝夕の通勤通学の人、日中の散歩や買い物の人など、人の往来によって犯罪のしにくい状況が生まれます。道を行きかう人が挨拶をしあう状況が生まれれば、より安心を感じるでしょう。



意義、必要性

街には、見通しのよさと善意のみまもりの目が必要です。みまもりの少ない場所や時間帯がわかれば、パトロールの計画づくりなど、地域のみまもりを増やす検討の材料になります。

パトロールを実施してみまもりを増やす他に、自然なみまもりを増やすためには、散歩や庭いじりなどの個人の活動もよいでしょう。みまもりを増やすことは、地域のにぎわいをうみだします。さまざまな地域の活動、まちづくり活動もみまもりの増加に貢献するでしょう。

目的

「近文あい運動」では、2006年冬から近文小学校の下校時にみまもり運動を続け、犯罪や交通事故に対する児童の危険遭遇人数割合や件数、箇所数が減少しています。

今回の調査は、“みまもりの目”が実際にどれくらいあるのかを把握し、今後の「近文あい運動」のみまもりの方法の改善などに役立てるために実施するものです。

2. 調査方法



「防犯まちづくりのための調査の手引き」(2009年)掲載の「みまもり量調査」の分類について、下記のように名称を改訂しました。

継続型調査⇒日常調査
イベント型調査⇒集中調査

みまもり量を調べる以下の2種類の調査を実施します。近文地区では、B→Aの順序で調査を実施しました。

A 日常型みまもり量調査(日常調査)

散歩や買物などをおこなって、それぞれの方が、決められた時間帯の中で任意の時間に行います。継続的に実施することで、季節や時間、天候による変化をみることができます。

自ら調査を行うことで、地域の方々の地域への関心や問題意識が高まります。

公園の近くを買物のついでに調査します。

小学校の近くを散歩のついでに調査します。

調査そのものがみまもり活動にもなります。



B 集中型みまもり量調査(集中調査)

決められた日時に調査します。決められた時間間隔、ルート、方向に調査します。一度に多くの人手が必要ですが、一日で調査できます。

事前に十分な説明を行うことで綿密かつ計画的な調査ができます。

各ルートの調査員2名は、決められた時間にそれぞれ逆方向に歩き始めます。1時間に3回程度調査を行います。





近文地区では、集中調査⇒日常調査の順番で調査を行うことにしました。

このように、集中調査を実施した後に、日常調査を行うことで

- ・調査経験者がいることで、調査に対する不安が軽減する
- ・調査経験者に調査の仕方を尋ねることで、手法の伝達が進みやすい
- ・調査経験者を中心に、模擬調査を実施できる

といった効果が期待でき、日常調査がよりスムーズに進むと考えられます。

また、近文地区では、集中調査で人通りの極めて少なかったルートについて対象から外すといった日常調査の調査対象の絞り込みにも役立ちました。

A 日常型みまもり量調査（日常調査）

1. 調査の内容

(1) 調査対象

地域の中で、「子どもが多い」「高齢化が進んでいる」「アパートが多い」「空地・空家が多い」など、防犯に関連した特徴のあるルートと回り方を事前に設定しました。

対象地域	ルート名	ルート名
ルート1 北門中学校付近	右回りコース	左回りコース
	〇〇町の方	〇〇町の方
ルート2 はるかぜ公園付近	右回りコース	左回りコース
	〇〇町の方	〇〇町の方



集中調査の結果を踏まえて、極めて少なかったルートを日常調査の対象から外し、日常調査の負担を小さくしました。

また、回り方については、商業施設での買い物のついでに調査しやすいように起点を変更しました。

ルート	区間	距離	特徴
ルート1 北門中学校付近 [調査距離：753m]	①	278m	<ul style="list-style-type: none"> ・北門中学校に隣接 ・戸建住宅・併用住宅、共同住宅(アパート)が混在 ・戸建住宅は築40年から築浅まで混在
	②	189m	
	③	154m	
	④	132m	
ルート2 はるかぜ公園付近 [調査距離：796m]	①	170m	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングセンターが隣接 ・築20～40年の戸建住宅地
	②	275m	
	③	172m	
	④	179m	

(2) 調査日時

2010年4月の説明会以降、長期に渡って実施します。

調査日	調査時間帯
4月以降の平日で調査員が選択	14時～18時の間

2. 調査の準備

(1) 調査員

公募により、調査ルートのある町内の地元住民を調査員としました。

(2) 調査道具

各調査員に下記の道具を用意しました。

記録用紙 (兼説明用紙)	20枚/人	足りなくなった場合は、小学校で配布
画板	1枚/人	100枚準備し、必要な方に貸出
調査にあたっての留意点	1枚/人	調査にあたっての注意事項等を明記
広域地図	1枚/人	担当ルートがわかる地図



説明会では、あまり気負いすぎないように調査を実施するように、十分にお願ひしましょう。調査を一人で実施することが不安な方のために、集中調査の経験者や、主催者、専門家と一緒に模擬調査をする機会を設けたり、仲間同士で一緒にまわって練習をしてもらうのも良いでしょう。地域の方々の協力を得るためには、調査の目的・効果について十分な共通認識を持つことが重要です。

3. 調査スケジュール

説明会	4月予定
調査期間	○月○日～○月○日
調査時間帯	平日の14時～18時の間
調査票回収※	毎月第○ ○曜日 ○時～○時
提出先	○○町内会○○さん

※月に1回、町内会を通じて回収しました。



調査票は定期的に回収し、参加者に途中経過を知らせましょう。特定のルートや時間帯に偏らないよう修正できます。また、参加者のやる気の継続にもつながります。各調査員の実施曜日をずらして指定することで、偏りを減らす方法も考えられます。

4. 調査の実施方法

(1) 調査時間

平日の14時～18時の時間帯に、天候に関係なく都合の良い日時で実施します。

記録用紙にあるルートを子どもが歩くスピード(約1m/秒)で歩きながら、すれ違う人や自転車、自動車、沿道で活動している人の数を調べます。

1回の調査には15分程度かかります。中断なく回れる時に実施してください。

(2) 記入内容

①調査日時、天候等

・調査日、天候、調査の開始時刻と終了時刻を記入します。

②歩行者、自転車、自動車・バイク

- ・記録用紙の分類にあわせて、すれ違った人数(車の場合は台数)を「正」の字で記入します。
- ・すれ違った場合のみカウントします(追い越された場合はカウントしません)。
- ・未就学児はカウントしません。

③沿道で活動している人

・道路付近の屋外で移動せずに以下のような活動している人をカウントします。ただし、車庫、風除室、ベランダは屋外に含みます。



近文地区では、積雪期の調査も実施したことから、雪かきも例示しました。地域の实情に応じて例示すると良いでしょう。

<沿道活動の例>

立ち話、庭いじり、遊び、仕事(配達など)、掃除、洗濯、みまもり活動、車の手入れ、雪かき

- ・道路の端からおおよそ12m以内の人をカウントします。
- ・活動内容が多かったものについて、自由記入欄に記入してください。



近文地区では、沿道活動の範囲を下記のような理由から12mとしました。

- ・道路に面する宅地1軒分の奥行き=12m程度
- ・学術的に表情がわかるとされる距離=12m

調査員には、生活道路の幅の2倍程度ということで判断してもらいました。地域の实情に応じて、10～15m程度で感覚的にわかりやすい距離を設定すると良いでしょう。

■日常調査 調査票

日常調査の調査票は、十分な説明ができる集中調査よりも簡単なものになっています。

日常型みまもり量調査(日常調査)
【〇〇公園付近 右回り】

■月日 月 日

■時刻 時 分～時 分

■記入者名： _____

■天気：晴れ 曇り 雪 雨

注意：歩くスピードは子どもの徒歩程度(1m/秒)で一定にしてください。
数は「正」の字で記入してください。
途中の開始・終了時刻を記入してください。
集計は事務局で行います。

区間①	
歩行者(人数)	自転車(台数)
小学生	
一般	
自転車	
台数	
バイク	
台数	
沿道活動者(人数)	
小学生	
一般	

区間②

歩行者(人数)	自転車(台数)
小学生	
一般	
自転車	
台数	

区間③

歩行者(人数)	自転車(台数)
小学生	
一般	
自転車	
台数	
バイク	
台数	
沿道活動者(人数)	
小学生	
一般	

区間④

歩行者(人数)	自転車(台数)
小学生	
一般	
自転車	
台数	
バイク	
台数	
沿道活動者(人数)	
小学生	
一般	

区間③

歩行者(人数)	自転車(台数)
小学生	
一般	
自転車	
台数	
バイク	
台数	
沿道活動者(人数)	
小学生	
一般	

■全区間における沿道活動者について、多かったものや気が付いた点を記入してください

👉 現地調査を行い、スタート・ゴール地点や曲がり角の目印となるものなど、主要な周辺施設を地図上に明示しました。

👉 旭川近文地区では、みまもりの対象である「小学生」とその他の「一般」に分けています。

👉 日常調査では、調査員の負担が大きくなりすぎないように、集中調査より表の区分を少なくしました。

👉 実際には曲がり角がわかるように現地の写真を入れています。

👉 沿道活動等の詳しい内容がわかると、みまもりを増やすための具体的な対策がたてやすくなります。

5. 調査にあたっての注意点

調査員には注意点として下記の内容を伝えました。



近文地区では、住民活動保険制度が適用されるよう、町内活動として調査を実施しました。旭川市市民委員会連絡協議会（市民連協）が代表となって加入しています。町内会の行事その他の町内会活動中の傷害事故や賠償責任事故が対象となります。

(1) 一般的な注意事項

- 服装は、動きやすいものとして下さい。また、寒冷時には防寒対策を、晴天時には帽子や水等の熱中症対策を必ず行ってください。

(2) 調査上の注意事項

- 調査は、正確に実施することが大切ですが、あまり気負わずに実施してください。
- 調査には、10～15分程度を要しますので、時間に余裕のある時に中断なく実施するようにしてください。
- 調査中は事故の無いように周囲の交通状況に十分注意して下さい。
- 調査中に住民などから挨拶された場合は挨拶を返して下さい。
- 調査内容について問われた場合は、事前に配布する調査協力の依頼文を渡すか、下記の緊急連絡先に連絡して下さい。

(3) 緊急連絡先など

- 調査の内容について不明な点等がありましたら、下記にご連絡ください。

緊急連絡先：

- | | | |
|------|---|---|
| ○○携帯 | — | — |
| ○○携帯 | — | — |

B 集中型みまもり量調査（集中調査）

1. 調査の内容

(1) 調査対象

住宅地区の特性の異なる以下の3地区で、各1ルート（延長約1km）を対象としました。



ルート設定にあたっては、住宅地内の道路や商店街などの細い道を対象に選定しました。交通量の多い幹線道路など、常に多くの人目にさらされている場所は対象外としました。

ルート	区間	距離	特 徴
ルート1 北門中学校 付近 [調査距離：753m]	①	278m	<ul style="list-style-type: none"> ・北門中学校に隣接 ・戸建住宅・併用住宅、共同住宅(アパート)が混在 ・戸建住宅は築40年から築浅まで混在
	②	189m	
	③	154m	
	④	132m	
ルート2 はるかぜ公園 付近 [調査距離：796m]	①	170m	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングセンターが隣接 ・築20～40年の戸建住宅地
	②	275m	
	③	172m	
	④	179m	
ルート3 緑町20～ 近文町23 [調査距離：739m]	①	228m	<ul style="list-style-type: none"> ・築10～20年の戸建住宅 ・戸建、アパートが混在 ・築20～40年の戸建住宅 ・築10年未満の戸建住宅
	②	172m	
	③	131m	
	④	208m	

(2) 調査日時

調査日	時間帯
11月4日(水), 5日(木)	①14～16時
2月2日(火), 3日(水)	②16～18時



季節ごとに調査することで、季節や天候によるみまもり量の違いを把握することができます。なお、集中調査の場合、雨天時等、人通りが極端に減少する可能性がある場合は、調査を延期しましょう。



近文あい運動では、小学生のみまもりを中心に行っていたことから、小学生の下校時間である14:00～18:00に調査を実施しました。また、季節による変化をみるために、集中調査は11月(非積雪期)と2月(積雪期)の2回実施しました。

2. 調査の準備

(1) 調査員・協力者

- ・地元住民
- ・地元の高校生、大学生
- ・地元の社会福祉協議会、行政職員
- ・まちづくりの専門家（地元の研究所等）



地域のまちづくりNPOや地元の警察の方に協力をお願いしてみるのも良いでしょう。



一人で調査をするのが不安な方や交通量が多い場所では、調査員を2人にして、数える係と記録係に分担しました。トイレ交代等のための補助要員がいると良いでしょう。

■調査担当表

11月4日（水）14：00～16：00

ルート	コースA	コースB	補助
ルート1 北門中学校付近	〇〇さん	〇〇さん	
ルート2 はるかぜ公園付近			
ルート3 緑町20～近文町23			

本部連絡係：〇〇



同じルートの右回りと左回りでコースAとBに分けました。（詳細はp26参照）。

11月4日（水）16：00～18：00

ルート	コースA	コースB	補助
ルート1 北門中学校付近	〇〇さん	〇〇さん	
ルート2 はるかぜ公園付近			
ルート3 緑町20～近文町23			

本部連絡係：〇〇



常時巡回して、非常時に本部と連絡をする人のことです。

11月5日（水）14：00～16：00

ルート	コースA	コースB	補助
ルート1 北門中学校付近	〇〇さん	〇〇さん	
ルート2 はるかぜ公園付近			
ルート3 緑町20～近文町23			

本部連絡係：〇〇

11月5日（水）16：00～18：00

ルート	コースA	コースB	補助
ルート1 北門中学校付近	〇〇さん	〇〇さん	
ルート2 はるかぜ公園付近			
ルート3 緑町20～近文町23			

本部連絡係：〇〇

(2) 調査道具

各調査員に下記の道具を用意しました。

近文あい運動の腕章	1枚	見守り中のあい運動の方と調査員を区別するためバンダナを着用します
バンダナ	1枚	
記録用紙	4枚	2時間分
画板	1枚	
鉛筆	1本	
広域地図	1枚	担当場所がわかる地図



調査日は平日とし、学校が休みの時期やイベントがある日などは避けましょう。

3. 調査スケジュール

調査日 : 11月4日(水)、5日(木)

2月2日(火)、3日(水)

調査時間 : ①14~16時、②16~18時



①の時間帯は地域住民、②の時間帯は放課後の高校生も加わって実施しました。



調査に先立ち練習の回を設け、ルートの確認、調査のコツをつかみました。

■調査の流れ

①14~16時
調査

調査の説明	13:10~近文小ランチルーム
練習	14:00~14:15(約15分)
1回目調査	14:20~14:35(約15分)
2回目調査	14:40~14:55(約15分)
3回目調査	15:00~15:15(約15分)
4回目調査	15:20~15:35(約15分)
まとめ	調査終了後、近文小ランチルームで調査結果の確認とアンケートの回答



1回の調査は約10分で終わりますが、余裕をみて15分としています。

②16~18時
調査

調査の説明	15:10~近文小ランチルーム
練習	16:00~16:15(約15分)
1回目調査	16:20~16:35(約15分)
2回目調査	16:40~16:55(約15分)
3回目調査	17:00~17:15(約15分)
4回目調査	17:20~17:35(約15分)
まとめ	調査終了後、近文小ランチルームで調査結果の確認とアンケートの回答



2つの時間帯にわたり同じ調査員が実施する場合は、近文小に戻らず調査ルート付近で休憩をとりました。



練習中・調査中とも、定期的に本部連絡係が調査ルートを巡回し、調査上の不明な点や困ったことが無いか確認するとともに、トイレ休憩等の交代要員となりました。

4. 調査の実施方法



調査員は、決められた時間に決められた方向に出発して、歩きながらすれ違う人や自転車、自動車、沿道で活動する人の数を記録します。調査員（赤いバンダナをした人）、未就学児はカウントしません。

2時間の中で4回実施します。子どもの徒歩（1m/秒）程度の一定のスピードで歩きます。

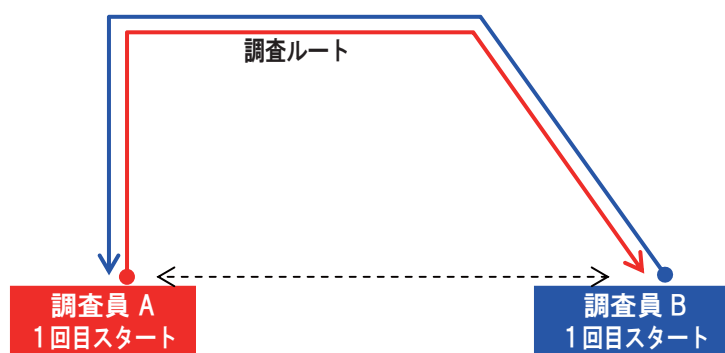
(1) ルートのまわり方

各調査票に記入されています。

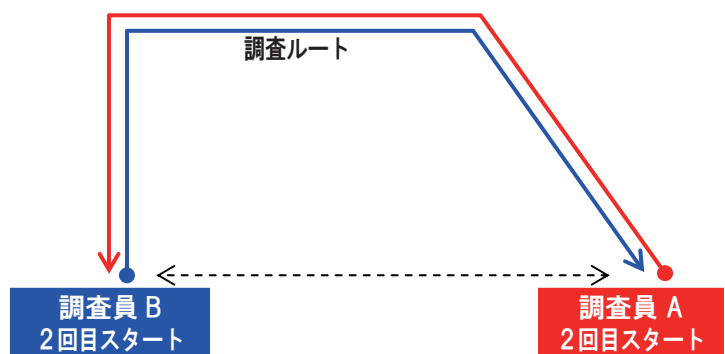


調査のスタート地点とゴール地点が離れている場合は、右回りの調査員と左回りの調査員が交互に回るようにしました。

- 1回目調査 調査員 A は右回りで調査します。調査員 B は左回りで調査します。

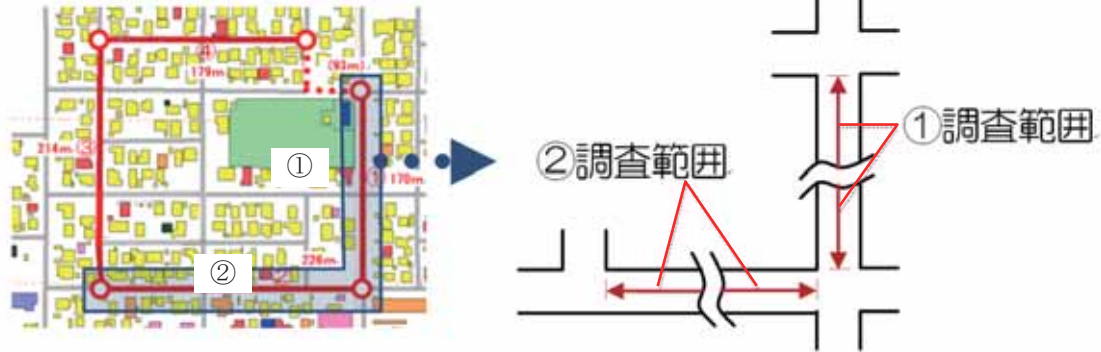


- 2回目調査 各自1回目の調査開始地点に戻らずに、同じルートを逆回りで調査します。



(2) 調査区間の範囲

交差点部分は含みません。



(3) 記入内容

①調査時刻

- ・調査の開始時刻、各区間の通過時刻、終了時刻を記入します。

②歩行者、自転車、自動車・バイク

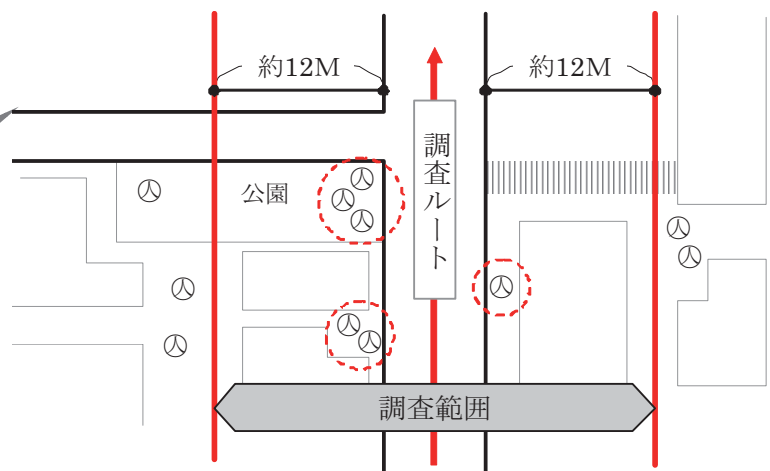
- ・記録用紙の分類にあわせて、すれ違った人数（車の場合は台数）を「正」の字で記入します。
- ・すれ違った場合のみカウントします（追い越された場合はカウントしません）。
- ・未就学児はカウントしません。

③沿道で活動している人

- ・道路端からおおよそ 12m の範囲で、その場から移動せず以下のような活動している人をカウントします。
- ・ただし、車庫、風除室、ベランダは屋外に含みます。

<沿道活動の例>

立ち話、庭いじり、遊び、仕事（配達など）、掃除、洗濯、車の手入れ、みまもり活動、雪かき（雪囲い）



赤丸内の人は沿道活動者としてカウントします。



近文地区では、沿道活動の範囲を下記のような理由から 12m としました。

- ・道路に面する宅地 1 軒分の奥行き = 12m 程度
- ・学術的に表情がわかるとされる距離 = 12m

調査員には、生活道路の幅の 2 倍程度ということで判断してもらいました。

地域の実情に応じて、10～15m 程度で感覚的にわかりやすい距離を設定すると良いでしょう。



近文地区では、積雪期の調査も実施したことから、雪かきも例示しました。

地域の実情に応じて例示すると良いでしょう。

■集中調査 調査票

沿道活動等の詳しい内容がわかると、みまもりを増やすための具体的な対策がたてやすくなります。地域の状況に応じて設定しましょう。

集中型みまもり量調査(集中調査)
[ルート2 はるかぜ公園付近]
コースA
11/4 15:00~15:15(3回目)
記入者名:



実際には曲がり角がわかるように現地の写真を入れています。

属性は、主観で判断してもらいました。

歩行者		自転車	
あい運動参加者			
小学生			
中学生			
高齢者			
未就学児連れの人			
その他一般			

台数	
台数	
台数	
沿道活動者	
沿道活動者	
見守り	
立ち話	
庭いじり	
遊び	
仕事、配達など仕事	
雲田い	
洗濯・車の手入れ	
洗濯	
掃除	
その他	

歩行者		自転車	
あい運動参加者			
小学生			
中学生			
高齢者			
未就学児連れの人			
その他一般			

自転車	
台数	

バイク	
台数	

沿道活動者	
沿道活動者	
見守り	
立ち話	
庭いじり	
遊び	
仕事、配達など仕事	
雲田い	
洗濯・車の手入れ	
洗濯	
掃除	
その他	

歩行者		自転車	
あい運動参加者			
小学生			
中学生			
高齢者			
未就学児連れの人			
その他一般			

自転車	
台数	

バイク	
台数	

沿道活動者	
沿道活動者	
見守り	
立ち話	
庭いじり	
遊び	
仕事、配達など仕事	
雲田い	
洗濯・車の手入れ	
洗濯	
掃除	
その他	

歩行者		自転車	
あい運動参加者			
小学生			
中学生			
高齢者			
未就学児連れの人			
その他一般			

自転車	
台数	

バイク	
台数	

沿道活動者	
沿道活動者	
見守り	
立ち話	
庭いじり	
遊び	
仕事、配達など仕事	
雲田い	
洗濯・車の手入れ	
洗濯	
掃除	
その他	

各列の凡例は以下の通り。
「あ」：あい運動（みまもり活動）、「小」：小学生、
「中」：中学生、「老」：高齢者、
「み」：未就学児連れの人、「一」：一般（その他）

5. 調査にあたっての注意点

調査員には注意点として下記の内容を伝えました。



近文地区では、団体で入る民間のボランティア保険に加入しました。町内会活動を対象とした保険を活用する方法もあります。(p22 参照)。



調査員をカウントしないよう、近文地区の調査員には、腕に識別用のバンダナをつけてもらいました。

(1) 一般的な注意事項

- 服装は、動きやすいものとして下さい。雨具（調査の支障とならないようレインコートが望ましい）は各自持参して下さい。また、晴天の際には、帽子や水等を所持し、熱中症対策を必ず行ってください。
- 集合等は時間厳守をお願いします。万一遅れる場合は速やかに下記の緊急連絡先に連絡して下さい。

(2) 調査上の注意事項

- 調査は腕章などを着用して実施して下さい。
- 調査中は事故の無いように周囲の交通状況に十分注意して下さい。
- 調査中に住民などから挨拶された場合は挨拶を返して下さい。
- 調査内容について問われた場合は、事前に配布する調査協力の依頼文を渡すか、下記の緊急連絡先に連絡して下さい。

(3) 緊急連絡先など

当日の緊急連絡先：

- 携帯 - -
- 携帯 - -

調査時の待機場所：

松山市久米地区 車の通り抜け調査の手引き



1. 車の通り抜け調査の目的…………… 32
2. 調査の内容…………… 33
3. 調査の準備…………… 35
4. 調査スケジュール…………… 37
5. 調査の実施方法…………… 38
6. 調査にあたっての注意点…………… 40

1. 車の通り抜け調査の目的



地域に用のない通り抜けを目的とした車が入ってくると、騒音や振動などによる生活環境の悪化や交通安全上の問題を引き起こす可能性があります。

このような車の存在は、みまもり量を増大させ、地域の安全に貢献するという側面も持っていますが、同時に、地域内に普段は見かけない車両や人がいることが常態化するため、ひったくり、痴漢や誘拐などを企てる者も近づきやすくなる恐れがあります。

通り抜けの車は少ないに越したことはありません。そのための方策を検討することは、安全・安心な地域をつくる上で重要な課題だと考えられます。

ただし、地区の中を走っている車の多くは、その地区の居住者の車であったり、その地区に何らかの用がある人の車であったりします。

地区に用のある車と用のない車(通り抜け)とを区別し、現在の地域の問題点を明らかにする必要があります。

本調査は地域を通り抜けている車がどれだけいるのかを把握し、対策の検討に役立てるために実施するものです。

2. 調査の内容



(1) 調査の内容

この調査は、地域に入る車と出て行く車のナンバープレートと出入り時の時刻を記録することから「ナンバープレート調査」とも呼ばれます。

ナンバープレートは下の図のように最後の4桁の数字(下図の〇〇-〇〇)のみを記録します。



調査を行うにあたって、事前に道路の幅員や交通規制、道路管理者(道路ごとに国・県・市町村のどれか)を調べておくと、問題・課題の整理、解決に役立ちます。

(2) 調査地域

対象地域は、通り抜けをされたくない地域として、安全・安心まちづくりを検討している地域、小学校校区などを対象にします。

(3) 調査の実施日時

久米地区では、小学生の通学時の登校・下校時における車の通り抜けの発生を調査するため、以下の時間としました。

7月14日(火) 午前7時～午前8時05分
午後3時30分～午後4時35分

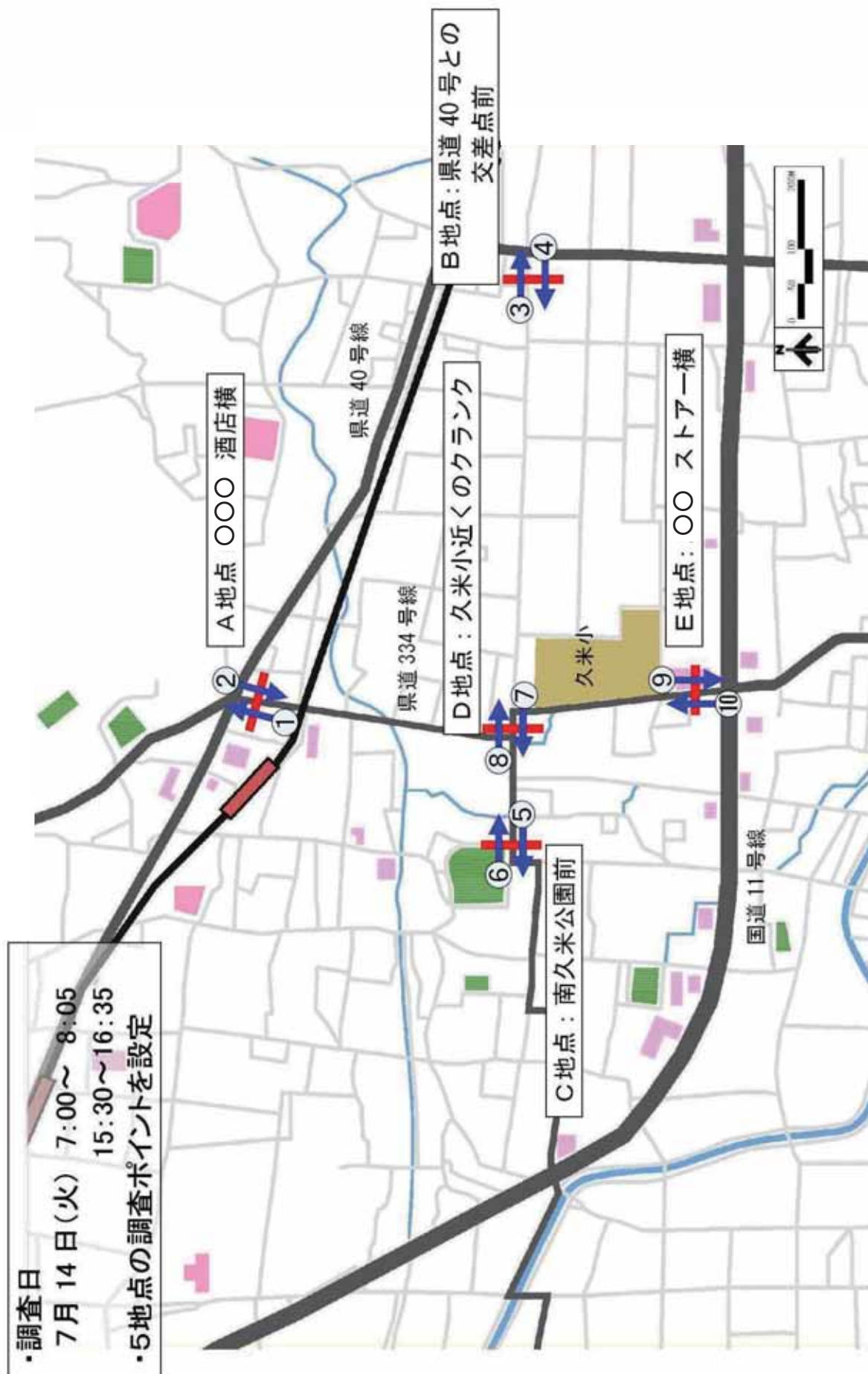
調査時期は、車の交通量が増える休日や年末年始、学校の休みの時期、雨天など避けて行ってください。また、調査員の負担を軽減するためなるべく夏季・冬季は避けましょう。

(4) 調査員・協力者

- ・久米地区のみなさん
- ・久米小学校
- ・久米小PTAのみなさん
- ・防犯ボランティアのみなさん
- ・まちづくりの専門家

地区に入った車が5分間で地区外に流出すれば「通り抜けの車」と判断するため、流出側の調査終了時刻を5分遅らせています。

■調査地点位置図（例）



3. 調査の準備

(1) 調査人員

1つの調査地点に2人（各方向1人）の調査員を配置します。
久米地区では5地点×2人＝10人で調査を行いました。

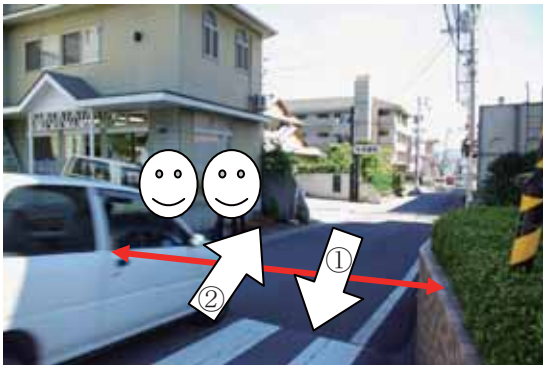


交代に配慮し、1つの調査地点に2～3人の調査員を配置するとよいでしょう。
混雑が予想される場所については、別に調査員を配置して、交差点の滞留（信号待ち）台数などを把握しておくこと、通過交通の発生源や原因を分析するのに役立ちます。
また、緊急時の交代や調査道具の追加などの対応も考慮し、調査本部で待機する人、自転車で調査を見回る人などの要員も配置できるとよいでしょう。



：調査員の配置

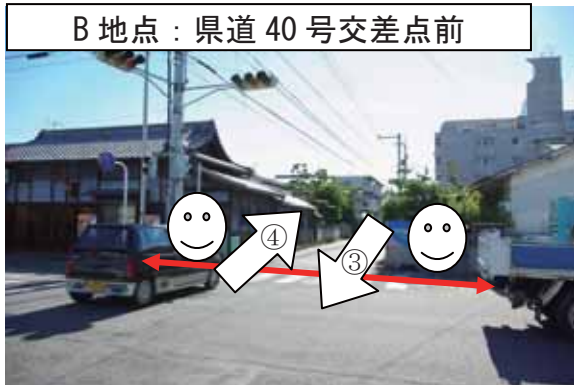
A 地点：〇〇酒店横



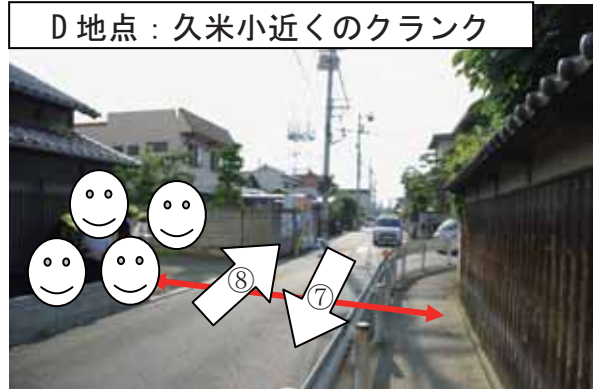
■調査人員配置表（例） ①～⑩：調査の方向、調査員名

	7:00～8:05	15:30～16:35
A 地点	①：〇〇さん・〇〇さん ②：〇〇さん・〇〇さん	①：〇〇さん・〇〇さん ②：〇〇さん・〇〇さん
B 地点：	③： ④：	③： ④：
C 地点 南久米公園前	⑤： ⑥：	⑤： ⑥：
D 地点	⑦： ⑧：	⑦： ⑧：
E 地点	⑨： ⑩：	⑨： ⑩：

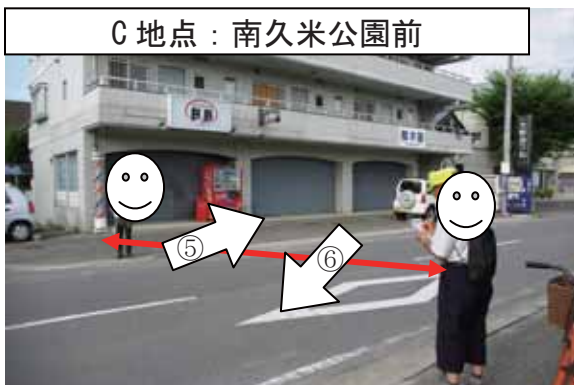
B 地点：県道 40 号交差点前



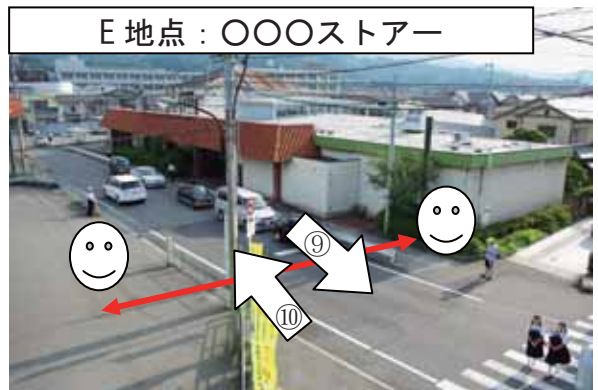
D 地点：久米小近くのクランク



C 地点：南久米公園前



E 地点：〇〇〇ストアー



(2) 調査道具

久米地区では下記の道具を用意しました。

備品・機器	数量（+予備）
調査地点図	10
記録用紙	十分数
クリップボードまたは画版 （A4サイズ）	10
色つきガムテープ	1
ボールペン	10（+5）
ボイスレコーダー	10
腕時計	各自
折りたたみ椅子	5～10
防犯タスキ・腕章・名札	各 10
デジタルカメラ	2

*水筒やタオル、帽子などは、各自の判断で用意します。

雨天でも調査を実施しますので、天候によっては雨具を用意します。

眼鏡・コンタクトレンズを使用している方は忘れないようにして下さい。



スピードガン…通り抜けの車は、交通量が多いことも問題ですが、その走行速度が速い場合、さらに問題の深刻さが増すこととなります。通り抜け車が多い路線で実際の走行速度を測ってみるのも良い取り組みです。



手軽な測り方としては、スピードガンの利用が挙げられます。スピードガンは、スポーツ店などで販売しているものでも結構ですし、大学の研究室等で借りられることもあります。ドライバーとのトラブルを避けるために速度調査を実施することを地元警察署に連絡しておきましょう。

(3) 警察・自治会等への調査実施の周知、調査地点周辺への協力依頼

歩道などの公道上で調査を行うには、警察（公安委員会）の「道路使用許可」が必要です。それに加え、道路管理者の「道路占用許可」が必要な場合があります。

調査を行うにあたって、事前に地元警察署や道路管理者、自治会等へ調査の内容等を事前に説明しておきましょう。


公道以外に他の人の土地を利用する場合は、事前に調査の協力をお願いしておきましょう。

4. 調査スケジュール（久米地区の例）

日時	内容	
7月13日（火）		
15：00 16：30 ～17：30	調査地の確認 〇〇〇に集合 ・ 事前に調査内容と方法の説明	
7月14日（水）		
チームA	06：30	久米小学校の校門に集合 ・ 調査道具の確認 ・ 調査内容の確認 ・ 各自の腕時計の時刻合わせ
	06：40	調査地点に移動
	06：55	調査方法の確認、練習
	07：00	調査開始
	08：05	調査終了
	08：15	久米小学校の校門に集合 ・ 調査票の回収 ・ 調査の感想、意見等の聴取（グループインタビュー等）
	08：45	解散
チームB	14：40	久米小学校の校門に集合 ・ 調査道具の確認 ・ 調査内容の確認 ・ 各自の腕時計の時刻合わせ
	15：10	調査地点に移動
	15：25	調査方法の確認・試験作業
	15：30	調査開始
	16：35	調査終了
	16：45	久米小学校の校門に集合 ・ 調査票の回収 ・ 調査の感想、意見等の聴取（グループインタビュー等）
	17：15	解散

5. 調査の実施方法

- ① 担当地点まで移動したら、自分の担当の方向を確認する。
 [注意] 立ち位置について確認する。
 調査開始時刻の前に、記録用紙の地点番号、日付を確認し、記録者の名前を記入する。交通量が多い場合、必要に応じてボイスレコーダーで記録する。
- ② 調査開始時刻から記録を開始する。
- ③ 地区内に入る車（または出て行く車）が近づいてきたら、まず時刻を記入する（表を参照）。交通量が多くて記入できない場合は無記入でよい。
※連続して車が来た場合は、2台目以降の時刻欄は無記入でよい。
- ④ 下図のナンバープレートの見方を参考に、担当する方向の自動車類（二輪車を除く）の車番号を記入する（判読できなかった場合でも通過台数は確認できるよう、行に横線を引く。ボイスレコーダーの場合は「不明」と吹き込む）。
- ⑤ 調査終了まで、③、④の作業を繰り返す。
- ⑥ 調査終了時刻になり次第終了。片付けを行い、集合場所に戻る。


 なお、特定の車種（大型車など）が問題になっていれば、別途、種別欄を設けチェックします。調査結果をもとに相手方に対して注意を促すことができます。

■ナンバープレートの見方

愛媛 5 7
 さ 1 1 - 2 2

左図のナンバープレートの場合、下表の1の欄のように
 （4桁のナンバー）を記入します。

■調査票記入例

	通過時刻		車番号				備考
	時	分					
1	7	0	1	1	2	2	
2	7	2	—————				
3	7	3	1	1	4	5	

判読できなかった場合は横線を引く

■調査票

調査票 枚目

調査地点	車の方向	調査時刻
_____ 地点 ※A～Eの記号を入れる	※①～⑩の番号を入れる	: ~ :
		記録者
		.

	通過時刻		車番号				備考
	時	分					
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							

	通過時刻		車番号				備考
	時	分					
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							

6. 調査にあたっての注意点


調査員には注意点として以下の内容を伝えました。

(1) 一般的な注意事項

- 服装は、動きやすいものとして下さい。雨具（調査の支障とならないようレインコートが望ましい）は各自持参して下さい。
- 集合等は時間厳守でお願いします。万一遅れる場合は速やかに下記の緊急連絡先に連絡して下さい。

(2) 調査上の注意事項

- 調査は地元の防犯パトロール用帽子や腕章などを着用して実施して下さい。
- 調査中は事故の無いように周囲の交通状況に十分注意して下さい。
- 調査中に住民などから挨拶された場合は挨拶を返して下さい。
- 調査内容について問われた場合は、事前に配布する調査協力の依頼文を渡すか、下記の緊急連絡先に連絡して下さい。



万が一に備えて、
保険に加入して
おきましょう。

(3) 緊急連絡先など

当日の緊急連絡先：

〇〇携帯	—	—
〇〇携帯	—	—

調査時の待機場所：

<通り抜け調査の協力のお願い>

本調査は、騒音や振動などによる生活環境の悪化や交通安全上の問題、防犯上の問題を引き起こす可能性のある通過交通がどれだけいるのか、どこからどこへ通り抜けているのかを調べるものです。

地域の方々に現地調査に参加していただき、より効果的な「車の通り抜け調査」を実施していきたいと考えています。

皆さまのご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

■調査日・調査時間

7月14日（火） 午前7時～午前8時05分
午後3時30分～午後4時35分

■調査地点

久米小学校校区を対象にします。調査地点は右図の5つの地点（A～E）です。



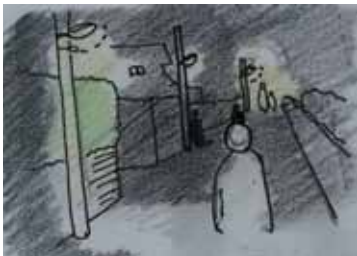
■調査員・協力者

- ・久米小学校
- ・久米小PTAのみなさん
- ・防犯ボランティアのみなさん
- ・まちづくりの専門家

旭川市近文地区 くらがり調査の手引き



1. くらがり調査の目的…………… 44
2. 調査の内容…………… 45
3. 調査の準備…………… 48
4. 調査スケジュール…………… 49
5. 調査の実施方法…………… 50
6. 調査にあたっての注意点…………… 55



1. くらがり調査の目的



背景、現状・問題認識

夜間のくらがりとは、不安感を引き起こすだけでなく、ひったくりやチカン等の犯罪を招く恐れがあります。

くらがりができる理由は、照度の不足やムラ、汚れや故障など街灯の管理の問題、街路樹等の障害物の影響等があります。

空き家・空き地など低未利用地によるくらがりの増大、ライフスタイルの多様化に伴う夜間における外出機会の増加等への対応として、まちの明るさの確保が重要になっています。

意義、必要性

くらがりの解消は、人の目による監視性を高め、犯行抑止や夜間における地域社会の活動や暮らしを安全・安心にするために重要です。特に、北海道では冬季の日の入り時刻が早いことから、子どもの下校時の不安感や犯罪を防止する必要性も高いと考えられます。

一方で、まちを明るくする際には光害、環境問題、景観等への影響を考慮する必要があります。また、街灯の増設は費用的に限界があることから、住宅の門灯や商業施設、公共公益施設等の明るさを活用していくことも大事です。

くらがり解消のため、地域の実情にあわせて必要な明るさを総合的・計画的に確保していく必要があります。

目的

「近文あい運動」では、小学生の下校時に、地域住民によるみまもり活動を継続的に実施しています。「近文あい運動」の展開方針として、子どもだけではなく、全ての地域住民の安全・安心を実現することが謳われています。

そこで、小学生低学年を中心としたみまもり活動から、塾通いが増える小学生高学年や中高生、大学生、OLなどの夜間の防犯安全性を高めるために、くらがりの実態を把握し、効果的・効率的な対策のための検討材料とします。

2. 調査の内容

調査手法

近文地区では、以下の2つの調査を行いました。

A アンケートによるくらがり調査

地図を使ったアンケートにより、暗いと感じる場所や暗くて犯罪の不安を感じる場所がどこかを調べます。

近文地区では、8月20日～9月1日に「近文あい運動」参加者約300人を対象に実施し、215票（回収率約72%）を回収しています。

B 照度調査

照度計を使って照度（水平面照度と鉛直面照度）を計測するとともに、街灯調査（位置・管理番号、明るさ阻害要因）を行います。

A アンケートによるくらがり調査

近文地区では、近文あい運動「緊急」子供を守るための住民懇談会&ネットワーク会議の300人を対象に下記のアンケートを実施しました。

<p>「くらがり」についてのアンケートのお願い</p> <p>いつも「近文あい運動」の見守り活動に御参加いただきありがとうございます。おかげさまで、近文地区での小学生の危険運動割合や危険場所が大幅に減少しています。さて、これから冬に向けて日がどんどん短くなってくると、小学生が昼や少年団から帰宅する線や中高生などの下校時も遅くなります。暗がりや、不安感を引き起こすだけでなく、ひったくりやチャカン等の犯罪被害を招く恐れがあります。</p> <p>そこで、近文地区内の暗がりについてアンケート調査を行うことにしました。このアンケートに加え、9月には美濃の明るさを計測する調査を合わせて行います。これらの調査結果は、地区内の暗がりや危険な場所が把握でき、危険箇所を回避したり、街灯整備などに活用することができます。</p> <p>ぜひ、このアンケート調査にご協力ください</p> <p>■回収期限：平成21年9月1日(火) ■回収方法：町内会長さんに提出してください</p>	<p>「緊急」子どもを守るための住民懇談会&ネットワーク会議</p> <p>質問7 あなたが「近文あい運動」に参加していて、感じていることを記入してください。</p> <p>①活動についての不満、不安、問題・課題などがあれば、ご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>②活動に参加して良かったことや地域がよくなったことがあれば、ご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>③「近文あい運動」に今後も参加したいですか？ 次の選択肢から選び、○を付けてください。</p> <p>ア、参加したい イ、参加したくない ウ、どちらともいえない</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">) </div> <p>質問8 あなたのお住まいの町名に○を付け、丁目を記入してください</p> <p>ア、緑町 イ、緑町 ウ、近文町 エ、川端町6条 オ、川端町7条</p> <p>カ、旭町 キ、その他()</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: 100%;"> 丁目 </div> <p>質問9 最後にあなたの年齢と性別を選んで○を付けてください</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">年齢</td> <td style="width: 20%;">ア、20代</td> <td style="width: 15%;">イ、30代</td> <td style="width: 15%;">ウ、40代</td> <td style="width: 15%;">エ、50代</td> <td style="width: 15%;">オ、60代</td> <td style="width: 15%;">カ、70代以上</td> </tr> <tr> <td>性別</td> <td colspan="2">ア、男性</td> <td colspan="4">イ、女性</td> </tr> </table>	年齢	ア、20代	イ、30代	ウ、40代	エ、50代	オ、60代	カ、70代以上	性別	ア、男性		イ、女性																																													
年齢	ア、20代	イ、30代	ウ、40代	エ、50代	オ、60代	カ、70代以上																																																			
性別	ア、男性		イ、女性																																																						
<p>「近文地区の「くらがり」についての質問です」</p> <p>質問1 近文地区に、くらがりによりチャカン・ひったくりなどの犯罪を感じた経験がありますか？</p> <p>該当するもの、○(内)を記入してください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">ア、ある</td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td>イ、ない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>質問2 質問1で「ある」と答えた方にお尋ねします。くらがりによりチャカン・ひったくりなどの犯罪にあらう危険を感じる道路はどこですか？ 別紙の地図上の該当する道路に○(内)を付けてください。その道路番号を下欄にすべてご記入ください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> <td style="width: 10%;"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>質問3 質問2でくらがりにより危険を感じる道路のうち、特に改善が必要だと思う道路はどこですか？ 3つまで選んで、その道路番号を下欄にご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>質問4 その他、近文地区内のくらがりについて気になる点などがあれば、ご記入ください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>	ア、ある										イ、ない																																								<p>【「近文あい運動」についての質問です】</p> <p>質問5 あなたが「近文あい運動」で見守りをしている場所を、別紙の地図上の該当する場所に◎(2重丸)を付けた上で、その道路番号を下欄にご記入ください。なお、子どもと一緒に移動する場合は、移動の終点の場所に●(黒丸)を付け、◎と●を結んでください。</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>質問6 あなたが「近文あい運動」で見守りをしている回数は、どのくらいですか？ 1週間の日数、または、1カ月、1年間の「いずれかを選んで○(内)を付けてください」</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">ア、1週間に</td> <td style="width: 10%;">日くらい</td> </tr> <tr> <td>イ、1カ月に</td> <td>日くらい</td> </tr> <tr> <td>ウ、1年間に</td> <td>日くらい</td> </tr> </table>	ア、1週間に	日くらい	イ、1カ月に	日くらい	ウ、1年間に	日くらい
ア、ある																																																									
イ、ない																																																									
ア、1週間に	日くらい																																																								
イ、1カ月に	日くらい																																																								
ウ、1年間に	日くらい																																																								

ご協力ありがとうございます。

B 照度調査



校区全体を調査すると、多数の方の協力と多大な時間が必要になります。そこで、アンケート調査で夜間に不安を感じる指摘が多かった道路や、旧市街地や新興住宅地、住工混在地域といった地域特性を踏まえて、調査対象を絞る方法もあります。

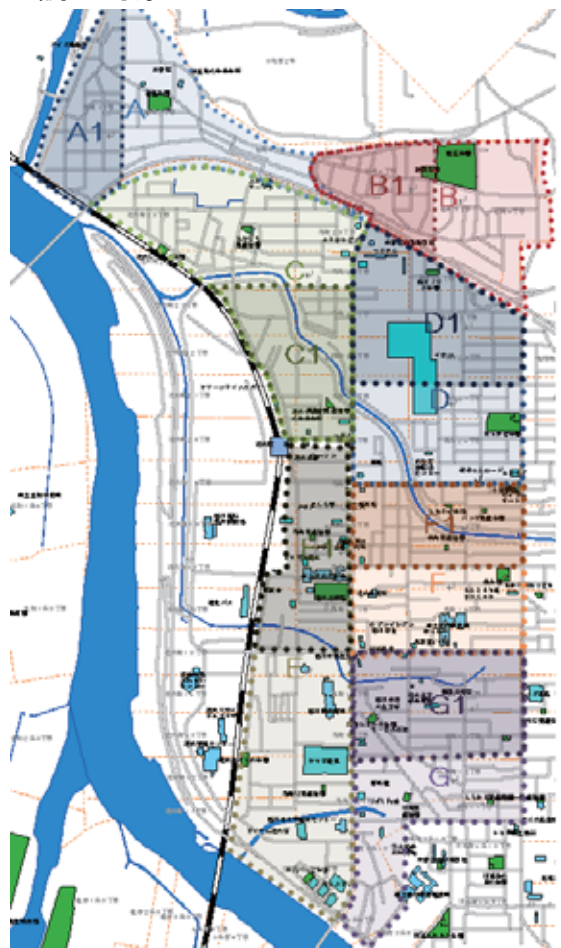
(1) 調査範囲

近文小学校校区全体を A～G の 7 地区に分けて、各地区の半分程度を調査対象としました。

■ 調査地点数

エリア名	A1	B1	C1	D1	E1	F1	G1	計
地点数	82	64	58	91	65	94	112	573

■ 調査対象地区



月あかりの影響が大きい日は避けましょう(新月が理想的です)。

(2) 調査日時

2009年9月17日(木) 18:30～21:30
2009年9月18日(金) 18:30～21:30
2009年10月26日(月) 18:30～21:30
※雨天の場合は中止

3. 調査の準備

(1) 調査員・協力者

1チームは、①照度を計測する計測係、②記録用紙に計測結果を記録する記録係、③街灯管理番号を確認する台帳係の3人編成+トイレ等の交代要員となる補助1人とします。



近文地区では、水平面照度と鉛直面照度（最大4方向）を調査するのに、1チーム・60~100地点で2時間程度かかりました。
調査の内容や範囲に応じて、調査参加者を募りましょう。

■分担表 9月17日（木）

チーム	①計測係	②記録係	③台帳係	④補助
A				
B				
C				
D				
E				
F				
G				

■分担表 9月18日（金）

チーム	①計測係	②記録係	③台帳係	④補助
A				
B				
C				
D				
E				
F				
G				



11月調査では2日間で7地区・573地点を延27人で調査しました。

●調査参加者

- ・小学校PTA（お父さん）、教員
- ・大学生ボランティア
- ・まちづくりの専門家（地元の研究所等）



自治会や地域のまちづくりNPO、警察の方にも協力をお願いしてみましょう。

(2) 調査道具

各チームに下記の道具を用意しました。

近文あい運動の腕章	人数分	
デジタル照度計	1台	
計測棒(次頁参照)	1台	
予備電池	数個	照度計、懐中電灯用
懐中電灯	2個	照度計測用と街灯調査用
くらがり照度調査用紙(マップ)	1部	
街灯調査用紙(マップ)	1部	
調査エリアマップ	1部	
クリップボード, ボールペン	2枚, 2本	照度計測用と街灯調査用



夏季の場合は、水筒やタオル、虫除け、冬季の場合は、防寒対策など各自の判断で用意するように知らせておきましょう。

また、眼鏡・コンタクトレンズを使用している方は忘れないように知らせておきましょう。

4. 調査スケジュール



照度の補正を行うため、調査の前後に、周囲の明るさの影響を受けにくい小学校のグラウンドの定点で照度計測を行いました。

18:30	近文小学校ランチルームに集合
18:30~18:50	調査内容の説明
19:00~21:00	チームに分かれて照度測定調査実施
調査終了次第	近文小学校ランチルームに集合
10分程度	調査結果まとめ



2月調査では、日没にあわせて、調査開始時刻を30分早めました。



調査内容の説明会

5. 調査の実施方法

(1) 調査内容

①照度

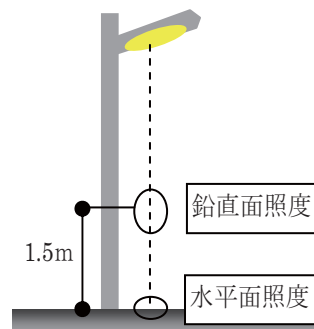
水平面照度（路面から高さ 10cm）と鉛直面照度（路面から高さ 150cm＝大人の目の高さ）を計測します。

②明るさに影響を与えるものの有無

樹木の影やグローブの汚れなど街灯が本来の明るさを発揮できていない要因の有無も調べます。

③街灯の管理番号

街灯の改善等につなげていく際に必要となる街灯の管理台帳を作成するため、街灯の位置と管理番号を調べます。



管理番号の確認

👉 夜間は街灯の管理番号が見えにくいことから、昼間に別途調査を実施してもよいでしょう。

(2) 照度の計測方法

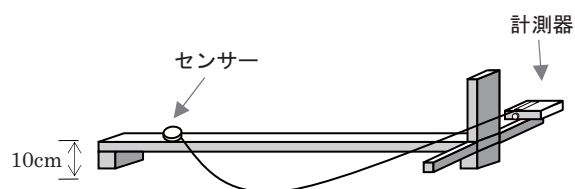
1) 水平面照度

路面から 10cm の高さで水平面照度を計測します。

①計測棒を寝かし、照度計のセンサーに影をつくらないようにします。

②計測係が照度計の測定値を固定するホールドボタンを押し、数値を読み上げ、記録係が記入します。

■水平面照度の測り方



👉 簡易に計測できるような計測棒を作製しました。



2) 鉛直面照度(道路のある各方向)

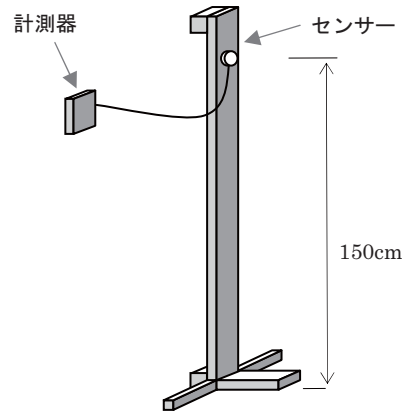
地面から 150cm の高さで鉛直面照度を計測します。

- ①計測棒を立てて、照度計のセンサーに影をつくらないようにします。
- ②計測係が照度計の測定値を固定するホールドボタンを押し、数値を読み上げ、記録係が記入します。

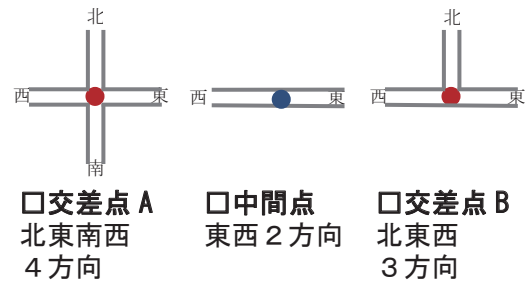
※照度計の受光部に自分の影や懐中電灯、自動車のライトが入らないように注意してください。

※道路の接続により、鉛直面照度を計測する向きが異なります(右図参照)。

■鉛直面照度の測り方



■鉛直面照度を計測する向きの例

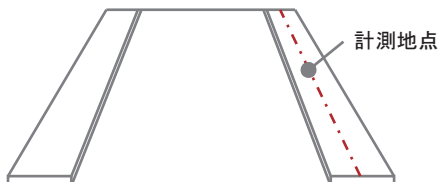


3) 照度計測地点(次頁記録用紙参照)

- ・各チームに割り当てられたルート上の調査地点について測定します。
- ・調査地点は、①交差点と②交差点の中間点の2種類があります。中間点の位置は目視により判断してください。交差点間の距離が大きい場合は複数点としています。
- ・歩道の有無により計測位置を判断します(下図参照)。

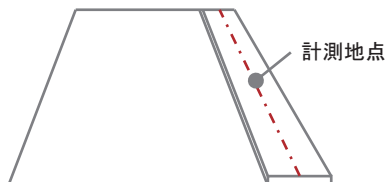
■歩道が両側にある場合

- ・明るい方の歩道の中心



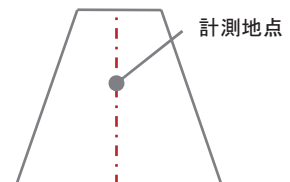
■歩道が片側にある場合

- ・歩道の中心



■歩道が無い場合

- ・道路の中心

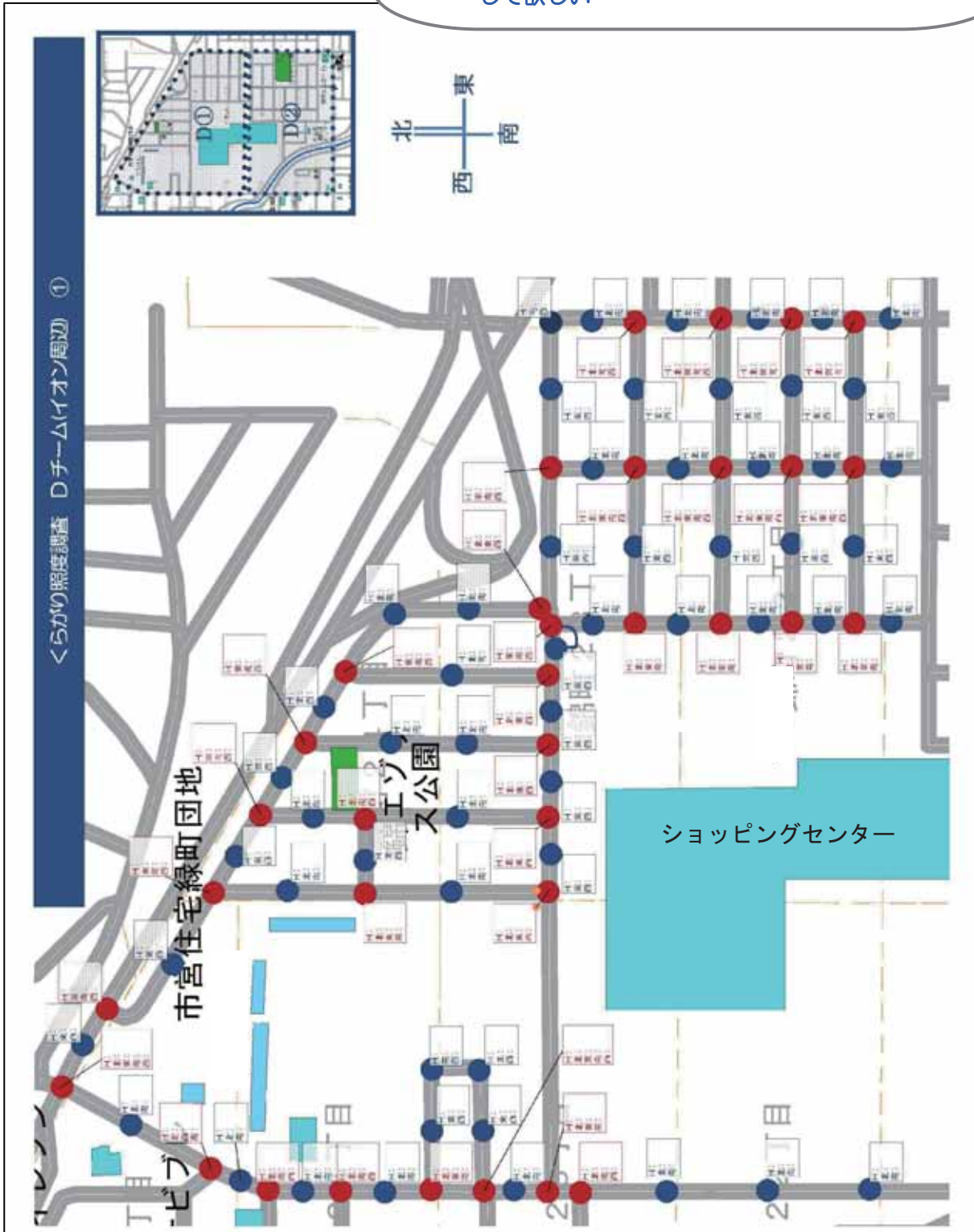


■照度調査 記録用紙



近文地区における調査員からの改善要望事項

- ・地図に建物を入れるなどわかりやすくしてほしい
- ・地図にない道路があったので最新の地図を使用してほしい
- ・迷わず歩けるために、地図上に廻るルートを指定してほしい



(3) 街灯調査

調査区域内の街灯の管理番号を地図上に記録するとともに、明るさに影響を与える樹木やグローブの汚れなどをメモします。

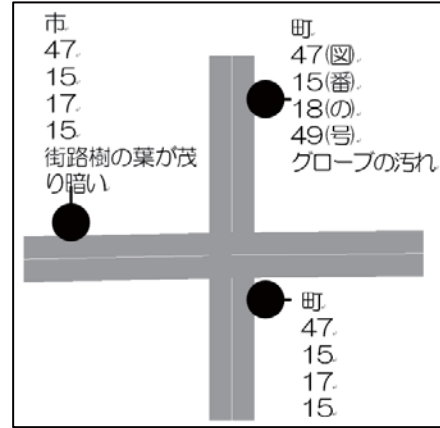
1) 調査項目と記入方法

下記の内容についてマップ上に記入します(右図 マップへの記入例参照)。

①街灯位置

街灯の設置場所をマップ上に●(黒丸)で記入してください(道路のどちら側かもわかるように)。

■マップへの記入例



②管理主体

管理主体は市と町内会があります。

アームの長いものが市で、それ以外は町内会です(右写真参照)。

市のものは「市」、町会のものは「町」と記入してください。

■管理主体の異なる街灯の区別の仕方

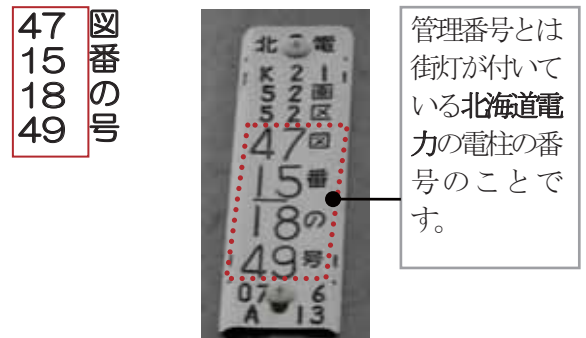
町内会の場合	市の場合
「町」と記入	「市」と記入

③管理番号

街灯は、電力会社の電柱管理番号(白いプレート)で管理されています。

赤枠部分の2桁4行の番号を記入してください。

■管理番号の見方



④明るさに悪影響を与えている事象

街灯があるにもかかわらず、くらがりが生じている場合、その原因を記入してください。

- [例]・樹木の葉が生い茂っている
・グローブが汚れている

■グローブの汚れ

比較的明るい街灯	グローブの汚れが目立つ暗い街灯

資料：芝浦工業大学三浦研究室

■街灯調査 記録用紙

街灯調査 Dチーム(イオン周辺) ①

1. 管理主体

- 市の施設 (市)と記入
- 市の施設 (町)と記入

2. 管理番号

- 管理番号なし (原則)の2桁4行

記入例

47 回
15 番
18 の
49 号

3. 明滅時に撮影画像を撮っている事象

- ・樹木の影が写り込んでいる
- ・グローブの影(など)

記入例

東
47
15
17
15
北
47
15
17
15

南
47
15
17
15

西
47
15
17
15

6. 調査にあたっての注意点

調査員には注意点として下記の内容を伝えました。

- 「近文あい運動」の腕章を必ず付けてください。警察には、事前に本調査の実施について連絡済みです。
- 自動車には十分気をつけてください。安全が確保できていない場合は計測をしなくてもかまいません。
- 歩行者などの通行の妨げにならないようにしてください。

※調査中に判断に困ったこと等がある場合は、下記まで連絡してください。

緊急連絡先：090－ －

※調査終了後は近文小学校のランチルームに戻ってください。



近文地区では、団体で入る民間のボランティア保険に加入しました。町内会活動を対象とした保険を活用する方法もあります（p.22 参照）。

松山市久米地区 身近な公園調査の手引き



1. 身近な公園調査の目的…………… 58
2. 調査の内容…………… 59
3. 調査の準備…………… 61
4. 調査スケジュール…………… 62
5. 調査の実施方法…………… 63
6. 調査にあたっての注意点…………… 72

1. 身近な公園調査の目的



私たちの生活に身近な公園は、生活にうるおいをもたらしてくれる大切な存在です。しかし、公園によっては、管理が不十分でゴミが散らかっていたり、植栽が必要以上に繁っていたり、住民にほとんど利用されていなかったりする場合があります。

こうした公園は、住民にとって不安な場所になります。不安な場所となった公園は、いっそう住民から避けられてしまい、結果的に、人目のない、犯罪に対して危険な場所になる可能性があります。



身近な公園は、私たちの生活に最も近い公共空間でもあります。公共空間に対しては、様々な考え方をを持った人がいるため、必ずしも防犯の視点だけからその改善方策を定めることはできません。その意味で、身近な公園調査は、広い視点から公共空間の改善の方向性を考えるという「まちづくり」につながるきっかけになるでしょう。



本調査は身近な公園を対象に、公園に対する意識調査、防犯診断、使われ方調査などを行い、対策の検討に役立てるために実施するものです。

2. 調査の内容



(1) 調査の内容

身近な公園調査として3つの調査を行います。

ア 公園に対する意識調査

公園の近隣に住む人、公園の管理に携わる人、公園の近くを通る人など、公園に関わる様々な住民に、公園に対する意識や意向を尋ねます(久米地区では福音小学校の全児童の保護者を対象としました)。

イ 公園および周辺の防犯診断

調査グループを作って、実際に公園を歩きながら防犯上の問題や良い点を調べます。

ウ 公園の使われ方調査

一日のうち、いつ、どのような利用者が、どのような目的で公園を訪れているのかを観察によって把握します。可能であれば利用者へのインタビューを行います(久米地区では利用者や管理者などにインタビューを行いました)。



愛着・親しみのある公園にするため、基礎的情報として、地域の歴史や公園の名前の由来を調べることも大切です。

(2) 調査対象公園

調査対象は、みなさんが利用する身近な公園5カ所(①小坂公園、②福音公園、③星岡公園、④八区公園、⑤汽車ぽっぽ公園)です(詳細は次頁参照)。

(3) 調査の実施日時

久米地区では以下の日時に「イ」「ウ」の調査を行いました。

2009年7月23日(木) 午前9時～12時

(4) 調査員・協力者

- ・地域にお住まいの皆さん(管理に携わる人など)
- ・福音小のみなさん(児童、PTA、教員)
- ・防犯ボランティアのみなさん
- ・まちづくりの専門家

■調査対象公園

・調査日
7月23日(木) 9:00～12:00
5カ所の公園調査を設定



3. 調査の準備

(1) 調査人員

○親子 10 組、20 人を募集しました。

■調査人員配置表

	調査員名	
チームA	—1	・
	—2	・
	—3	・
	—4	・
チームB	—1	・
	—2	・
	—3	・
チームC	—1	・
	—2	・
	—3	・

(2) 調査道具

久米地区では下記の道具を用意しました。

備品・機器	数量
調査対象公園図面	10
記録用紙	10+予備
画版 (A 2 サイズ)	10
クリップ	30
ボールペン	20+予備
太めのマジックペン	数本
付箋	数束
デジタルカメラ	3
パソコン (写真を見せるため)	1
プロジェクタ	1
防犯タスキ・腕章・名札	各 20



公園の形状がわかる大きさの地図を利用します (p.70 参照)。可能であれば地元自治体に公園の図面を提供してもらいましょう。

*水筒やタオル、帽子などは、各自の判断で用意します。

雨天でも調査を実施しますので、天候によっては雨具を用意します。

眼鏡・コンタクトレンズを使用している方は忘れないようにして下さい。

4. 調査スケジュール（久米地区の例）



小さな公園でも調査には 15 分程度かかります。公園の大きさや予定に合わせて無理なく設定しましょう。



可能であれば、調査の前に専門家などの協力を得て調査方法などを講義してもらうとよいでしょう。



7月23日（木）			
	08:50	福音小学校に集合	
	09:00	調査内容の説明 ・調査の主旨 ・スケジュール ・調査方法 ・調査道具の確認	調査主体、まちづくりの専門家などが説明
チームA（4組）	09:20	福音小学校出発 ①小坂公園に徒歩で移動（直線距離約 600m）	まちづくりの専門家などが同行
	09:35	①小坂公園調査	
	09:50	②福音公園に徒歩で移動（直線距離約 400m）	
	10:00	②福音公園調査	
	10:20	福音小学校に移動（直線距離約 300m）	
チームB（3組）	09:20	福音小学校出発 ②福音公園に徒歩で移動（直線距離約 400m）	まちづくりの専門家などが同行
	09:35	②福音公園調査	
	09:55	⑤汽車ぽっぽ公園に徒歩で移動 （直線距離約 200m）	
	10:05	⑤汽車ぽっぽ公園調査	
	10:20	福音小学校に移動（直線距離約 200m）	
チームC（3組）	09:20	福音小学校出発 ③星岡公園に車で移動（直線距離約 800m）	まちづくりの専門家などが同行
	09:35	③星岡公園調査	
	09:55	④八区公園に車で移動（直線距離約 600m）	
	10:05	④八区公園調査	
	10:25	福音小学校に移動（直線距離約 800m）	
	10:40	福音小学校到着・休憩	
	10:50	各グループ公園調査のまとめ	
	11:20	・各グループ公園調査の結果発表 ・対応策の意見交換（福音公園を中心に）	専門家による講評
	12:00	終了	

5. 調査の実施方法

久米地区で用いた「ア 公園に対する意識調査」、「イ 公園及び周辺の防犯診断」の調査票などを例示します。

ア 公園に対する住民等の意識調査

<調査票（久米地区の例）>

「公園に対する意識調査」のお願い

■調査の主旨

本調査は、安全・安心な公園を目指し、身近な公園の利用状況や利用目的、各公園に対する評価を把握し、今後の改善に役立てていくために行うものです。

対象公園は、裏に示す5カ所（①小坂公園、②福音公園、③星岡公園、④八区公園、⑤汽車ぽっぽ公園）です。

つきましては、アンケート票にご回答いただき、ご提出ください。

なお、本調査によってご回答頂いた内容については、他の目的で使用することはありません。

■調査票の回収

- ◇ この調査票は平成21年 7月 日までにご記入の上、〇〇〇〇にご提出ください。
- ◇ 調査の内容や記入方法について、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

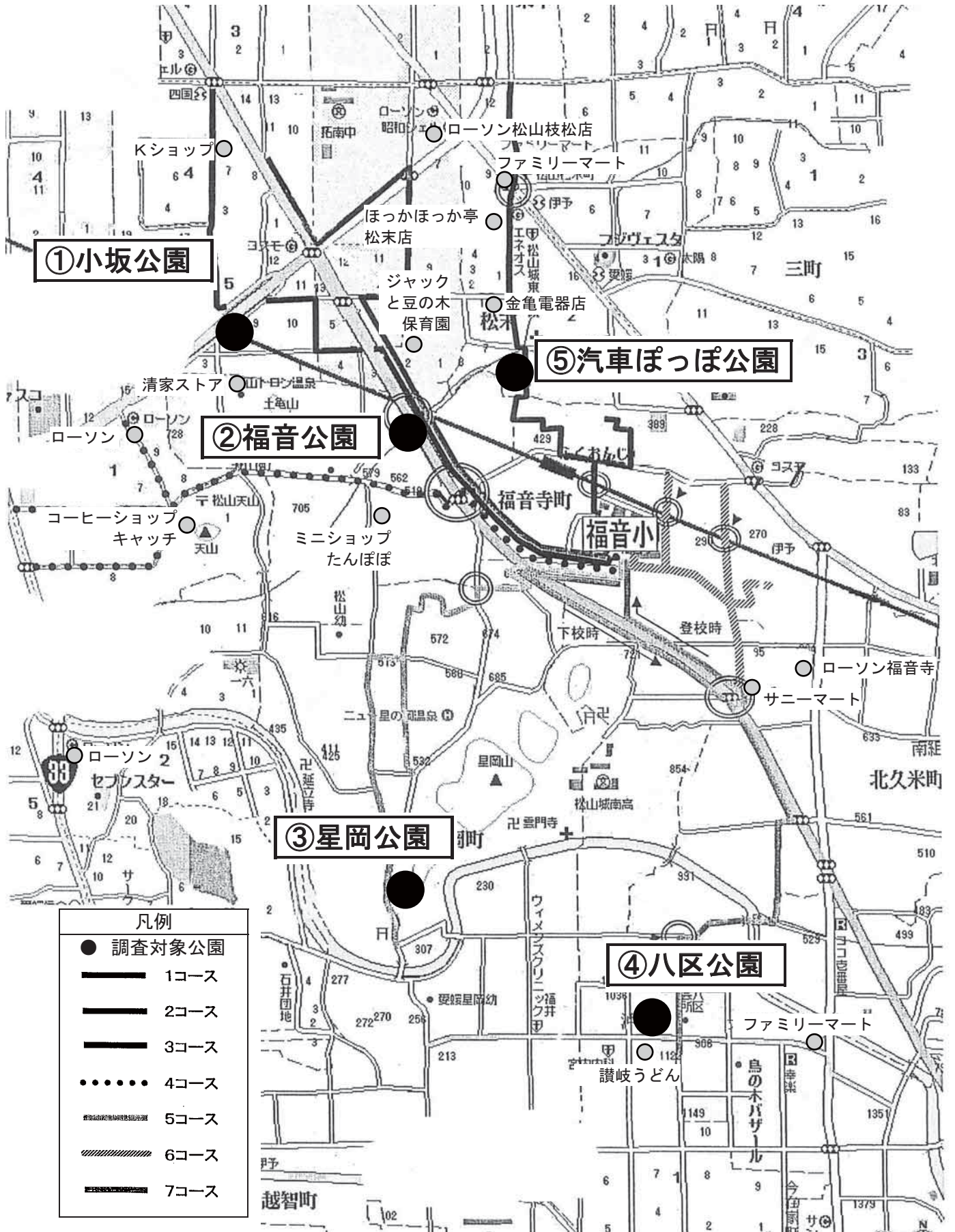
■問い合わせ先

〇〇〇



平成21年7月 日
福音小学校

■調査対象の公園位置図



公園に対する意識調査アンケート

年生

性別（男・女）

Q 1) あなたは、地図に示した①～⑤の公園の存在を知っていましたか。

各公園について、あてはまる番号一つに〇をしてください。

- ①小坂公園:(1. 知っていた 2. 知らなかった)
- ②福音公園:(1. 知っていた 2. 知らなかった)
- ③星岡公園:(1. 知っていた 2. 知らなかった)
- ④八区公園:(1. 知っていた 2. 知らなかった)
- ⑤汽車ぽっぽ公園:(1. 知っていた 2. 知らなかった)

Q 2) あなたの家から地図に示した①～⑤の公園までの距離はどれくらいですか。

各公園について、あてはまる番号一つに〇をしてください。

- ①小坂公園:(1. 歩いて5分以内 2. 歩いて5～10分 3. 歩いて10～15分 4. 歩いて15分以上)
- ②福音公園:(1. 歩いて5分以内 2. 歩いて5～10分 3. 歩いて10～15分 4. 歩いて15分以上)
- ③星岡公園:(1. 歩いて5分以内 2. 歩いて5～10分 3. 歩いて10～15分 4. 歩いて15分以上)
- ④八区公園:(1. 歩いて5分以内 2. 歩いて5～10分 3. 歩いて10～15分 4. 歩いて15分以上)
- ⑤汽車ぽっぽ公園:(1. 歩いて5分以内 2. 歩いて5～10分 3. 歩いて10～15分 4. 歩いて15分以上)

Q 3) あなた（保護者の方）は、地図に示した①～⑤の公園にどれくらい行きますか。

各公園について、あてはまる番号一つに〇をしてください。

- ①小坂公園:(1. 月に一度以下 2. 月に2、3回くらい 3. 週に1回くらい 4. 週に2回以上 5. 行ったことがない)
- ②福音公園:(1. 月に一度以下 2. 月に2、3回くらい 3. 週に1回くらい 4. 週に2回以上 5. 行ったことがない)
- ③星岡公園:(1. 月に一度以下 2. 月に2、3回くらい 3. 週に1回くらい 4. 週に2回以上 5. 行ったことがない)
- ④八区公園:(1. 月に一度以下 2. 月に2、3回くらい 3. 週に1回くらい 4. 週に2回以上 5. 行ったことがない)
- ⑤汽車ぽっぽ公園:(1. 月に一度以下 2. 月に2、3回くらい 3. 週に1回くらい 4. 週に2回以上 5. 行ったことがない)

Q 4) あなたが、各公園を利用する目的は何ですか。

各公園について、あてはまる番号一つに〇をしてください。

- ①小坂公園:(1. 休憩 2. 散歩 3. 草取り 4. 清掃活動 5. 運動 6. その他(_____))
- ②福音公園:(1. 休憩 2. 散歩 3. 草取り 4. 清掃活動 5. 運動 6. その他(_____))
- ③星岡公園:(1. 休憩 2. 散歩 3. 草取り 4. 清掃活動 5. 運動 6. その他(_____))
- ④八区公園:(1. 休憩 2. 散歩 3. 草取り 4. 清掃活動 5. 運動 6. その他(_____))
- ⑤汽車ぽっぽ公園:(1. 休憩 2. 散歩 3. 草取り 4. 清掃活動 5. 運動 6. その他(_____))

Q5) あなたのお子さん(このアンケートを持って来た子)は、地図に示した①～⑤の公園にどれくらい遊びに行きますか。各公園について、あてはまる番号一つに○をしてください。

- ①小坂公園:(1.月に一度以下 2.月に2,3回くらい 3.週に1回くらい 4.週に2回以上 5.行ったことがない)
②福音公園:(1.月に一度以下 2.月に2,3回くらい 3.週に1回くらい 4.週に2回以上 5.行ったことがない)
③星岡公園:(1.月に一度以下 2.月に2,3回くらい 3.週に1回くらい 4.週に2回以上 5.行ったことがない)
④八区公園:(1.月に一度以下 2.月に2,3回くらい 3.週に1回くらい 4.週に2回以上 5.行ったことがない)
⑤汽車ぽっぽ公園:(1.月に一度以下 2.月に2,3回くらい 3.週に1回くらい 4.週に2回以上 5.行ったことがない)

Q7) あなたは、①～⑤の公園で、小学生が、物を取られたり、体に危害を加えられたり、性的ないやがらせをされたりしたという話を聞いたことがありますか。ある場合、具体的な内容も教えてください。

- ①小坂公園:(1.ない 2.ある(具体的には? _____))
②福音公園:(1.ない 2.ある(具体的には? _____))
③星岡公園:(1.ない 2.ある(具体的には? _____))
④八区公園:(1.ない 2.ある(具体的には? _____))
⑤汽車ぽっぽ公園:(1.ない 2.ある(具体的には? _____))

Q8) あなたは、①から⑤の公園で、あなたのお子さん(このアンケートを持って来た子)をどの程度安心して遊ばせられますか。各公園について、あてはまる番号一つに○をしてください。

- ①小坂公園:(1.安心して遊ばせられる 2.不安だが遊ばせられる 3.不安で遊ばせられない 4.わからない)
②福音公園:(1.安心して遊ばせられる 2.不安だが遊ばせられる 3.不安で遊ばせられない 4.わからない)
③星岡公園:(1.安心して遊ばせられる 2.不安だが遊ばせられる 3.不安で遊ばせられない 4.わからない)
④八区公園:(1.安心して遊ばせられる 2.不安だが遊ばせられる 3.不安で遊ばせられない 4.わからない)
⑤汽車ぽっぽ公園:(1.安心して遊ばせられる 2.不安だが遊ばせられる 3.不安で遊ばせられない 4.わからない)

Q9) 防犯という面から見て、①～⑤の公園について、あなたが思う良い点、悪い点がありましたら、自由な言葉でご記入ください。

- | | 良い点 | ・ | 悪い点 |
|-----------|---------|---|---------|
| ①小坂公園: | (_____) | ・ | (_____) |
| ②福音公園: | (_____) | ・ | (_____) |
| ③星岡公園: | (_____) | ・ | (_____) |
| ④八区公園: | (_____) | ・ | (_____) |
| ⑤汽車ぽっぽ公園: | (_____) | ・ | (_____) |

ご協力ありがとうございました。

イ 公園および周辺の防犯診断

一つ一つ公園を巡り、①公園内部の設計、②立地環境の2点から調査します。調査結果は、公園ごとに地図・記入欄に書き込んでいきます。また、気になる点などを現場で写真撮影し、後で問題点を共有するのに役立てます。

①公園内部の設計については、以下のような点を調査します。

- 公園内にある、死角を作り出す設置物の存在
- 公園内部から外部への視線の通りやすさ
- 樹木の枝の繁り具合の適切さ・樹種の適切さ
- 園内でのゴミ・落書きなどの存在
- 公園内部の明るさ
- 花壇やプランターなど住民が管理できる設備
- 公園内のトイレの位置



子どもの視点に立って問題を見つけることも大切です。例えば、不審者に連れ込まれるような場所がないか、確認してみる方法があります。

②立地環境については、以下のような点を調査します。

- 公園に面する建物が、公園を見守ることができる構造であるか（窓やドアの向きなど）
- マンションなどに付属した公園（提供公園）の場合、マンションから公園を見守ることができる構造であるか
- 公園内部と外部の視線の通りやすさを妨げるものの存在（プレハブ倉庫や隣接敷地の植栽など）
- 公民館やカフェ、バス停など、近所の人が集まることのできる施設や商店の存在
- 管理されていない空き地・空き家など、ひと気がない場所の存在
- 公園周囲の道路の「みまもり量」
- 公園周囲の明るさ
- 近隣住民の主な生活動線の存在

■調査票（例）

調査公園	調査日時	記録者
	7月23日 時～ 時	

以下の回答欄に記入するとともに、具体的に図面上にチェック項目の番号と印、簡単なコメントをつけてください。

1. 公園内部の設計状況

□1-1. 公園内に子どもの姿を隠す死角をつくりだす遊具・物置などの設置物がありますか？

□1-2. 公園内部から外部への視線は通りやすいですか、目線を遮ってしまうものはないですか？

①樹木の枝の繁り具合の適切さ・樹種の適切さ

②遊具や建物の適切さ

□1-3. この公園の「好きなところ・良いところ」はどこですか？

2. 公園内部の管理状況

□2-1. 園内でのゴミ・落書きなどの違法行為の存在がありますか？

□2-2. 公園内部の「明るさ」は確保されていますか？

□2-3. 花壇やプランターなど住民が直接管理できる設備はありますか？

□2-4. 公園内のトイレの位置は適切ですか？

3. 公園の立地環境の状況

□3-1. 公園との境界部分にある建物が、公園を見守ることができる構造となっていますか？
(窓やドアの向きなど)

□3-2. マンションなどに付属した公園（提供公園）の場合、居住者が公園を見守ることができる構造であるか

□3-3. 公園内部と外部の視線の通りやすさを妨げるものの存在はありますか？
(プレハブ倉庫や隣接敷地の植栽など)

□3-4. 公民館やカフェ、バス停など、近所の人が集まることのできる施設や商店の存在はありますか？

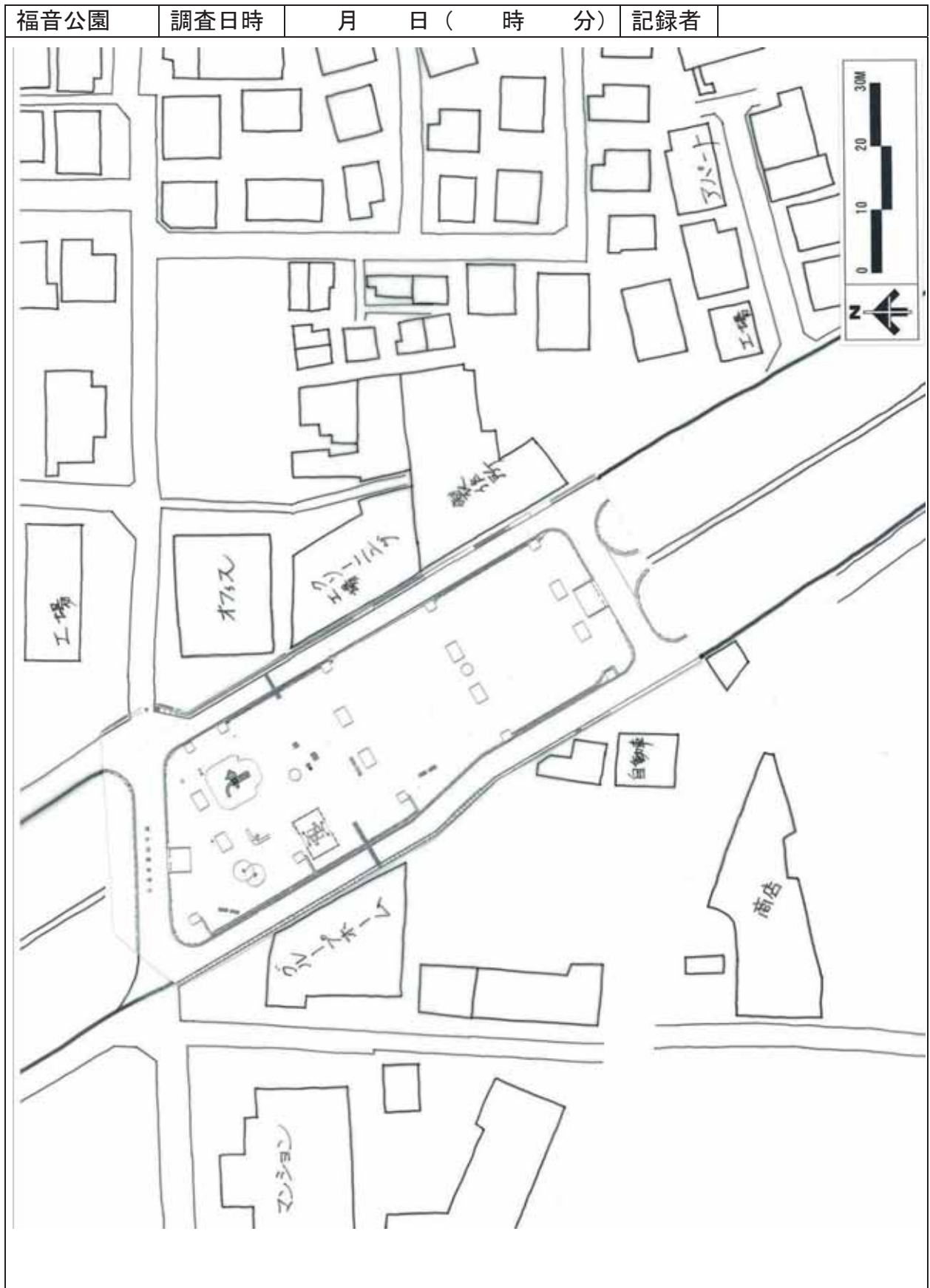
□3-5. 公園の周りには管理されていない空き地・空き家など、ひと気がない場所が存在しますか？

□3-6. 公園周囲に路上駐車や通過交通がありますか？

□3-7. 公園は近隣住民の主な生活動線沿いに位置していますか？
また、歩行者の「みまもり量」はありますか？

□3-8. 公園周囲の「明るさ」は確保されていますか？

■周辺を含めた公園の配置図（例）



6. 調査にあたっての注意点


調査員には注意点として以下の内容を伝えました。

(1) 一般的な注意事項

- 服装は、動きやすいものとして下さい。雨具（調査の支障とならないようレインコートが望ましい）は各自持参して下さい。また、晴天の際には、帽子や水等を所持し、熱中症対策を必ず行ってください。
- 集合等は時間厳守でお願いします。万一遅れる場合は速やかに下記の緊急連絡先に連絡して下さい。

(2) 調査上の注意事項

- 調査は地元の防犯パトロール用帽子や腕章などを着用して実施して下さい。
- 調査中は事故の無いように周囲の交通状況に十分注意して下さい。
- 調査中に住民などから挨拶された場合は挨拶を返して下さい。
- 調査内容について問われた場合は、事前に配布する調査協力の依頼文を渡すか、下記の緊急連絡先に連絡して下さい。

 万が一に備えて、
保険に加入して
おきましょう。

(3) 緊急連絡先など

当日の緊急連絡先：

○○携帯 — —
○○携帯 — —

調査時の待機場所：

資料：調査協力の依頼文（例）

＜身近な公園調査の協力のお願い＞

本調査は、調査グループを作って、実際に公園を歩きながら防犯上の問題点や防犯上良い点を点検します。地域の方々に現地調査に参加していただき、改善案に結びつけていきたいと考えています。

皆さまのご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。

■調査日・調査時間

7月23日（木） 午前9時～正午12時までを予定

■調査対象公園

対象公園は、みなさんが利用する身近な公園5カ所（①小坂公園、②福音公園、③星岡公園、④八区公園、⑤汽車ぽっぽ公園）です。



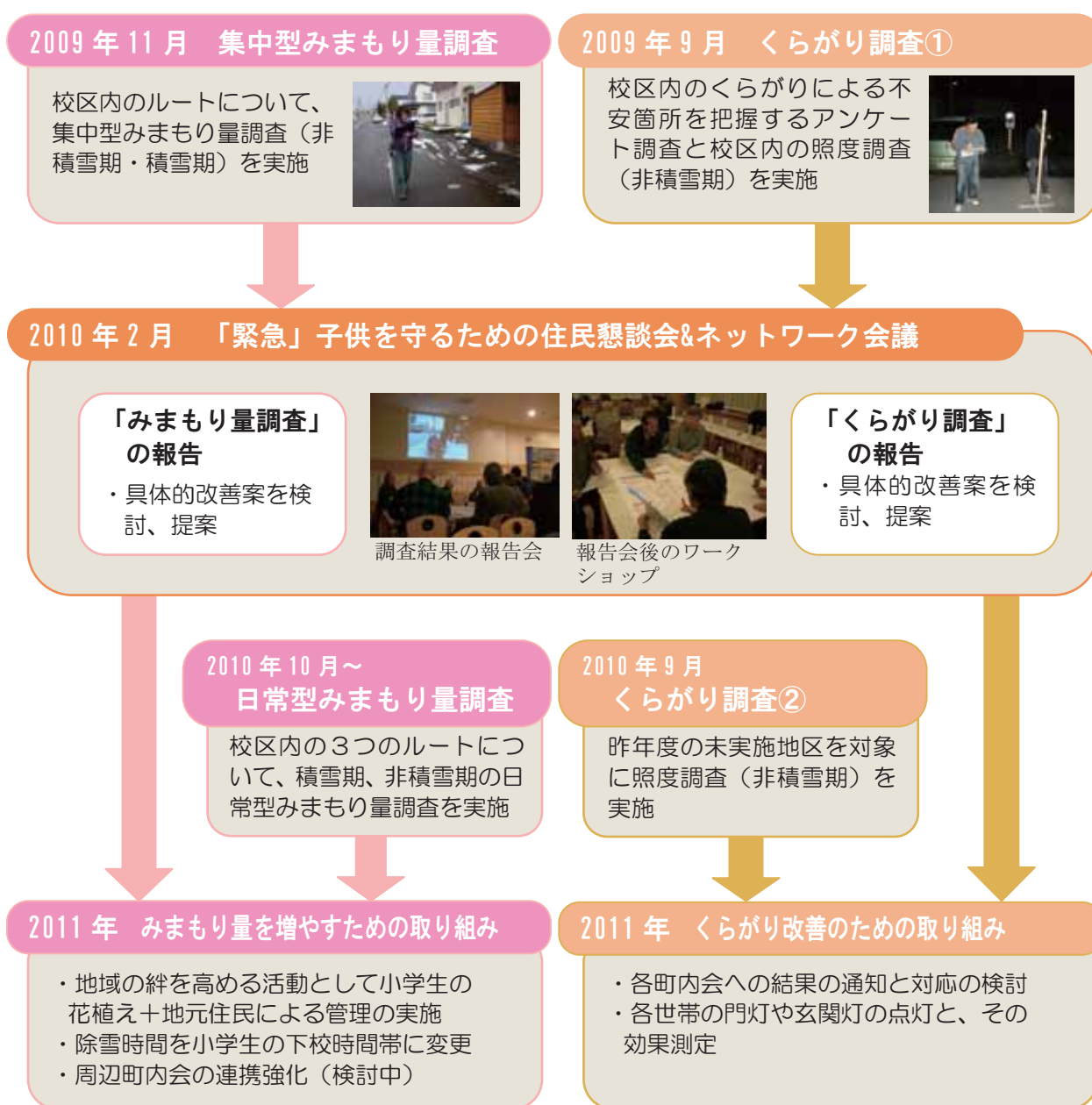
■調査員・協力者

- ・地域にお住まいの皆さん（管理に携わる人など）
- ・福音小のみなさん（児童、PTA、教員）
- ・防犯ボランティアのみなさん
- ・まちづくりの専門家

IV その後の取り組み

1. 旭川市近文地区

みまもり量調査とくらがり調査の結果は、小学校PTA、高校生ボランティア、近文あい運動参加者、警察、行政などが参加する「緊急」子供を守るための住民懇談会&ネットワーク会議」で報告され、あわせてワークショップ形式で今後の対応・対策等について意見交換を実施しました。調査の結果を受けて、下記の取り組みが行われています。



みまもり量を増やす取り組み

近文地区では、「最終的には、特別なみまもり活動をしなくても安全安心な地区にしたい」という思いが活動参加者で共有されています。

このため、今回の調査結果を受けて、地域の絆を高めるための長期的な方策として下記のような取り組みが行われています。



●小学生の花植え＋地元住民による管理

通学路の街路樹の植栽帯に、小学生が花植えを行い、地域の方が水やり等の管理を行っています。これにより、花づくりをきっかけにした小学生と地域住民との交流や近所づきあいが盛んになってきています。

●除雪時間を小学生の下校時間帯に変更

調査の結果、除雪をする人が最も多い時間帯が、小学生の下校時間と1時間程度ずれていました。除雪の時間帯については、変えてもいいという住民の意見が多かったことから、小学生の下校時間帯に合わせる事が提案されました。



完成した街路樹下の植栽帯

●周辺町内会の連携強化

みまもられるべき子どもが多い地区でみまもり量が低く、逆にみまもられるべき子どもが少ない地区でみまもり量が高いという結果を受けて、周辺町内会が連携して互いに見守りあう必要性が認識されました。

地域の声

～近文地区社会福祉協議会会長・西出元さん～

2006年6月から児童の登下校を見守る「近文あい運動」を行っています。今回の調査は、PTAや学生など大勢の方々に協力をいただきました。集計では専門家の協力を得て、大変助かりました。



みまもり量の少ない場所でもみまもりを行うなど、調査の結果を今後のあい運動に活用していきたいと考えています。

コラム：歩行者専用道路におけるみまもり量調査

筑波研究学園都市の「研究所・公園地区」にある緑の深い静かな歩行者専用道路（通称「ペデ」）のみまもり量について場所別、時間帯別に調査しました。

一般的に、歩行者と車の動線が分離するように計画されたペデは、犯罪不安を喚起する空間として捉えられていますが、みまもり量調査により、次のようなことがわかりました。

- ・いずれの時間帯でもみまもり量が 1.0（100mで一人のすれ違い）を超えており、一般的な住宅地と比べても決して低くありませんでした（図1）。
- ・特に行動属性では、近年ブームの自転車通勤やジョギング等の運動利用が多く、自動車と交わらずに通行できるペデの優位性が活かされていました（図2）。
- ・個人属性では、中学生や女性が少なからず見られますが、日没後、その割合が大幅に低くなる区間がありました（図3）。
- ・ペデと沿道施設との敷地境界部に 10m以上の緑地帯があることに加えて、緑地帯等の樹木が生長して見通しを妨げているため、沿道活動者はほとんど見られませんでした。

■調査日時

期間	2010年7月の6日間
時間	17:30～20:00（4回）

■みまもり主体の属性

個人属性	小学生、中高生、一般成人、高齢者
行動属性	歩行・移動、歩行・運動、歩行・ペット、自転車、沿道活動
性別(3-6日目)	男性、女性

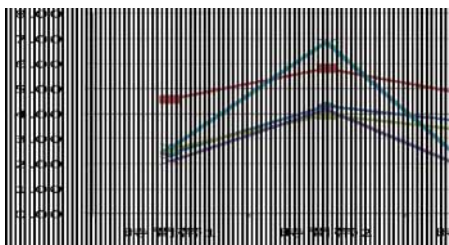


図1.区間別・時間帯別みまもり量

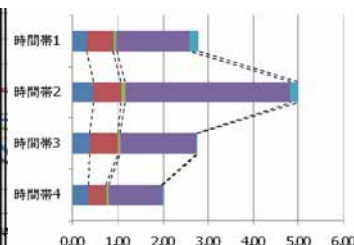


図2.行動属性別・時間帯別みまもり量

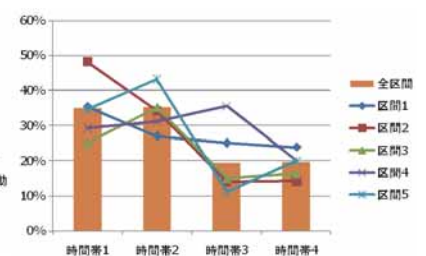


図3.時間帯別・区間別女性比率
(沿道活動は含まず)

出典：歩行者専用道路におけるみまもり量調査報告 筑波研究学園都市の歩行者専用道路を対象として 樋野公宏、石井儀光、土方孝将、樋野綾美、雨宮護、都市計画報告集 No. 9-2

コラム：見守りフラワーポット大作戦の実践とその効果～愛知県安城市篠目町～

「見守りフラワーポット大作戦」は、個々の負担を小さくしながらも、より多くの住民がより自然な形で参加できる防犯活動として考案された手法です。あいさつや声かけなどの自主防犯活動が行われている住宅地（愛知県安城市篠目町）での取り組みを紹介します。

各家庭が登下校時間帯を中心に、玄関先などの戸外でフラワーポット（以下、FP）への水やりなどしながら、子どもたちをみまもっています。水やりを通じた自然な監視の目の増加にあわせて、ご近所同士の会話など地域コミュニティの活性化が進んでいます。

■見守り FP 大作戦のシステムイメージ



取り組み開始から 3 か月後に行ったアンケート調査によれば、参加者の 2 割は従来の防犯活動未経験者でした。この取り組みによって楽しく、気軽な防犯活動として参加者が拡大しています。

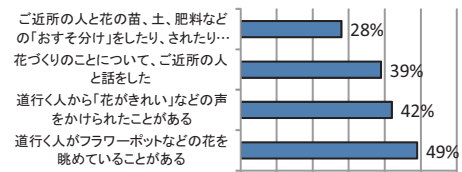
○FP をめぐる出来事としては「近所の人と話した」が約 4 割

○コミュニティの変化については 6～7 割が肯定的な回答

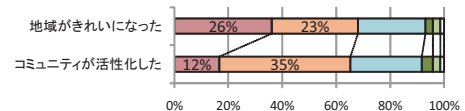
○参加者自身についても「子どもの防犯に対する意識が高まった」「地域に対する帰属意識（わが町意識）が高まった」が 8 割程度

○雨天日を除くと、毎日平均して参加者の 50～60%が水やりをしています。

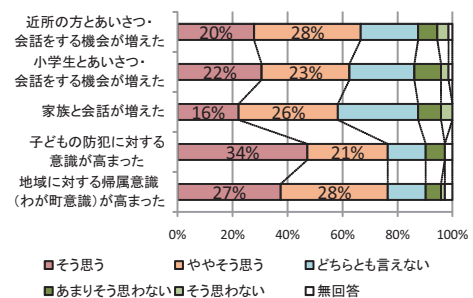
■FP をめぐる出来事



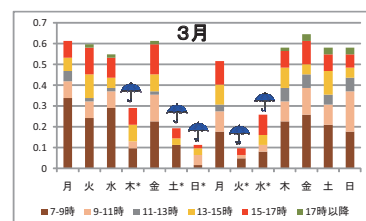
■コミュニティの変化



■参加者自身の変化



■水やりの回数（回/人・日） 傘印は雨天日



出典：樋野公宏（2010）「花づくりを通じた見守り活動の実証実験－安城市における「見守りフラワーポット大作戦」を対象に－」日本建築学会住宅系研究報告

くらがり改善のための取り組み

●各町内会への結果の通知

照度調査の結果を知らせ、対応策を検討しました。町会ごとの優劣をつけることにならないよう、配慮が必要です。

●各世帯の門灯や玄関灯の点灯とその効果測定

街灯設置には経費が必要となることから、すぐにはできることとして、隣近所が協力し門灯や玄関灯を中高生の帰宅時間となる 20 時頃まで点灯する取り組みが行われています。

さらに、その効果を直接感じるために、夜間の現地見学や照度測定が提案されています。

●中学生、高校生へのアンケート調査の実施

ネットワーク会議のメンバーである中学生、高校生に対して、不安箇所を把握するためのアンケート調査を実施することが検討されています。

なお、近文地区でのくらがり調査を受けて、市内他地区や他市でも調査が検討されています。

コラム：灯りのいえなみ宣言地区での取り組み

～兵庫県神戸市学園東町 6・7 丁目～

ニュータウンの戸建住宅地である学園東町 6・7 丁目地区では、日没から午後 10 時まで各戸の門灯や玄関灯の点灯を呼びかける「灯りのいえなみ宣言」を行っています。「宣言」に至るまでに、次のような活動を行いました。

●たそがれウォーク

日没ころに地域住民が「わがまちの安全点検」として、暗がり、死角、空き地などの問題点を洗い出しました。

●灯りウォッチング

専門家の協力のもと、カラフルな灯かりをつけたり、一斉に門灯を点灯したりしました。



たそがれウォークの様子



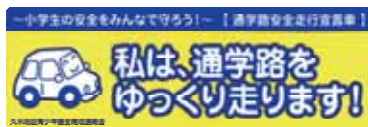
灯りウォッチングの準備の様子

2. 松山市久米地区

車の通り抜け調査と身近な公園調査の結果は、改善に向けた専門家からの提案と合わせて、地区の青少年健全育成連絡会で報告されました。

調査の結果を受けて、下記の取り組みが行われています。





配布されたステッカー（マグネット型）

車の通り抜け対策の取り組み

通り抜けの問題については、すぐにできることとして、“ゆっくり走ろう運動”を始めています。

この取り組みは、協力者の車に“私は、通学路をゆっくり走ります！”と書かれたマグネットを貼ってゆっくり走ってもらうとともに、後続のドライバーにも周知するというねらいがあります。

今後は、ステッカーを貼った車のデモ行進の実施なども検討されています。

また、中長期的な取り組みとして、歩行者優先の生活道路として位置付けるため、県道から市道への移管が検討されています。

地域の声

～久米地区青少年健全育成連絡会会長・安永耕造さん～

2005年からの「安全マップづくり」を通して、地域の危険な所を少しずつ改善する努力をしています。「通学路はとにかくゆっくり走ろう」という意識づけをするための啓発ステッカーを作り、ゆっくり走ろう運動とみまもり隊活動を継続して行っていきたいと思っています。



福音公園の改善の取り組み



高校生のワークショップの様子



「柱に絵などを」という意見が多く出された

福音公園については、青少年健全育成連絡会で調査結果を報告し、松山南警察署の白バイパトロールのルートに入れてもらいました。

また、高校生ボランティアの協力も得て公園調査、ワークショップによるアイデア出しを行い、小学校と町内会長、子ども会、公民館による「福音公園を考える会」に提案を行いました。具体的には、絵を描けるパネルを公園内の柱（橋脚）に設置し、アートを施すことでみまもり量や住民の関心を高めていくという取り組みです。

2011年2月以降のワークショップでは、描くテーマや描く人、運営について話し合いが行われ、高校生たちが考えた絵柄と児童たちの手形600枚を並べたアートパネルを作成しました。

3月26日、完成したパネルは福音公園に設置されました。アート制作中に発生した東日本大震災を受け、被災者への応援メッセージを寄せ書きしたパネルも合わせて設置されました。



福音公園でのアート設置の様子（右写真は東日本大震災被災地へのメッセージパネル）

地域安全マップの取り組み

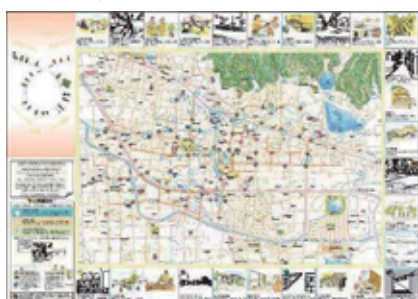
■2005年度 安全マップ



■2007年度 安全マップ (配布用)



■2008年度 安全マップ (配布用)



■2009年度 安全マップ (配布用)



地域安全マップづくりは、2004年度から毎年度継続的に行ってきています。

マップづくりは、久米地区青少年健全育成連絡会を中心に、子どもから大人、小中学校やPTA、地域組織、地元大学生や市職員のボランティアなど多様な主体の協働により進められています。

地域安全マップは防犯の目的だけでなく、まちのいい所探しや交通安全などのテーマにも広がっています。

今後もマップづくりを継続的にし、安全・安心なまちづくりが進められることが期待されます。

地域の声

～久米地区久米公民館運営審議会委員長・仙波 英徳さん～

●地域安全マップが久米地区にもたらしたもの

子どもの地域参加が進み、また地域住民も子ども関連の事業に参加することになり、子どもから大人まで一緒に関われる場ができました。

安全・安心づくり、まちづくりの実践を通じて、学校と公民館の連携が進み、情報の共有化や地域コミュニティの強化が進みました。

また、非行や不登校の減少など、子どもに落ち着きが見られるようになりました。

参考：警視庁（2009）「万引きに関する調査研究報告書」

http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/seian/manbiki/manbiki_chosa.pdf

●なぜうまくいったのか

マップというツールが社会教育を「見える化」し、地域の人を受け入れやすかったためです。

防犯に対する関心の高さからマップづくりへの参加、理解が進み、マップづくりで発見した「ネタ」を多様な活動につなげています。

また、重点課題の解決が地域のネットワークにつながり、それが次の課題解決の力になるという好循環が生まれています。



© 建築研究資料 第133号

平成23年 5月31日 印刷

平成23年 5月31日 発行

編集
発行

独立行政法人建築研究所

本資料の転載・複写の問い合わせは下記まで

独立行政法人建築研究所企画部企画調査課

〒305-0802 茨城県つくば市立原1番地

電話(029) 864-2151 (代)

